

大頭
全書

世界國盡

歐羅巴洲
北亞米利加洲

卷之三四

內列

柳田文庫
文庫11
A1836
2





歐羅巴洲の事
 億六千二百萬人
 の内十分の九は白
 人の種あり南の方
 には黒白相混した
 る人種あり又北
 の方魯西亞の領
 小ハ蒙古人の種
 残りて顔色白から

世界
 地理
 卷三

歐羅巴洲
 亞細亞
 東の方
 小
 良田山



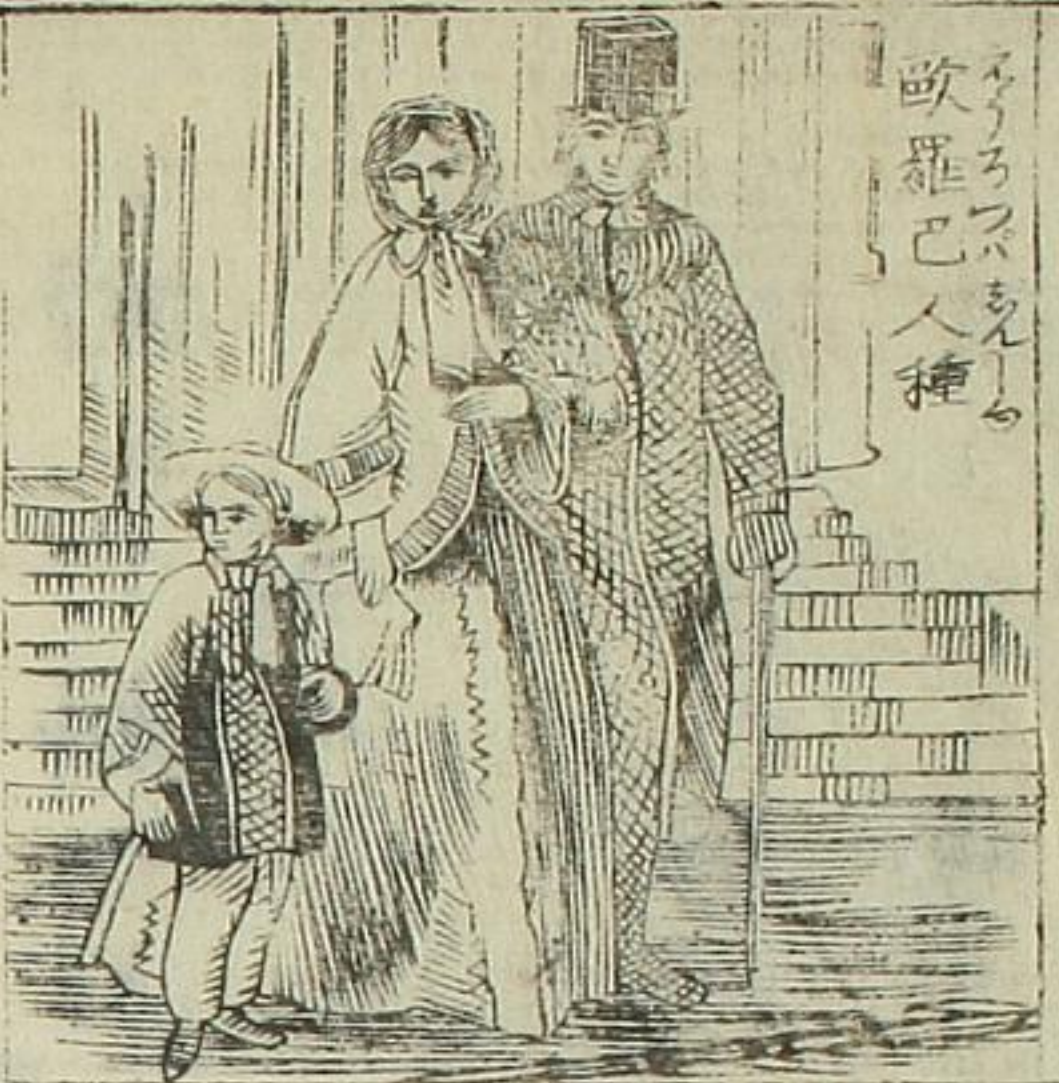
文庫11
 A1836
 2



48 7226

ぬものり

歐羅巴人種



當時歐羅巴洲中の
國々大小四十九王
國もろく公國も
帝國ハ唯魯西亞

中、亨良留河、末を
表海、少流、少甲
笑、第山の、慧、黒
海、越、北、中、海、河
洲、利、加、洲、と、對、

佛蘭西、地、利、の、三
箇國、の、土、留、古、も
或ハ帝國、と、い、ふ、こ
とも、は、れ、れ、ど、も、他、の
國、と、ハ、風、倍、も、違、ひ
別、の、の、小、せ、を、英、吉
利、ハ、王、國、ホ、ま、ど、も
格、別、の、強、國、ホ、て、其
政、事、の、行、届、き、國、力
の、盛、お、ろ、ハ、歐、羅、巴

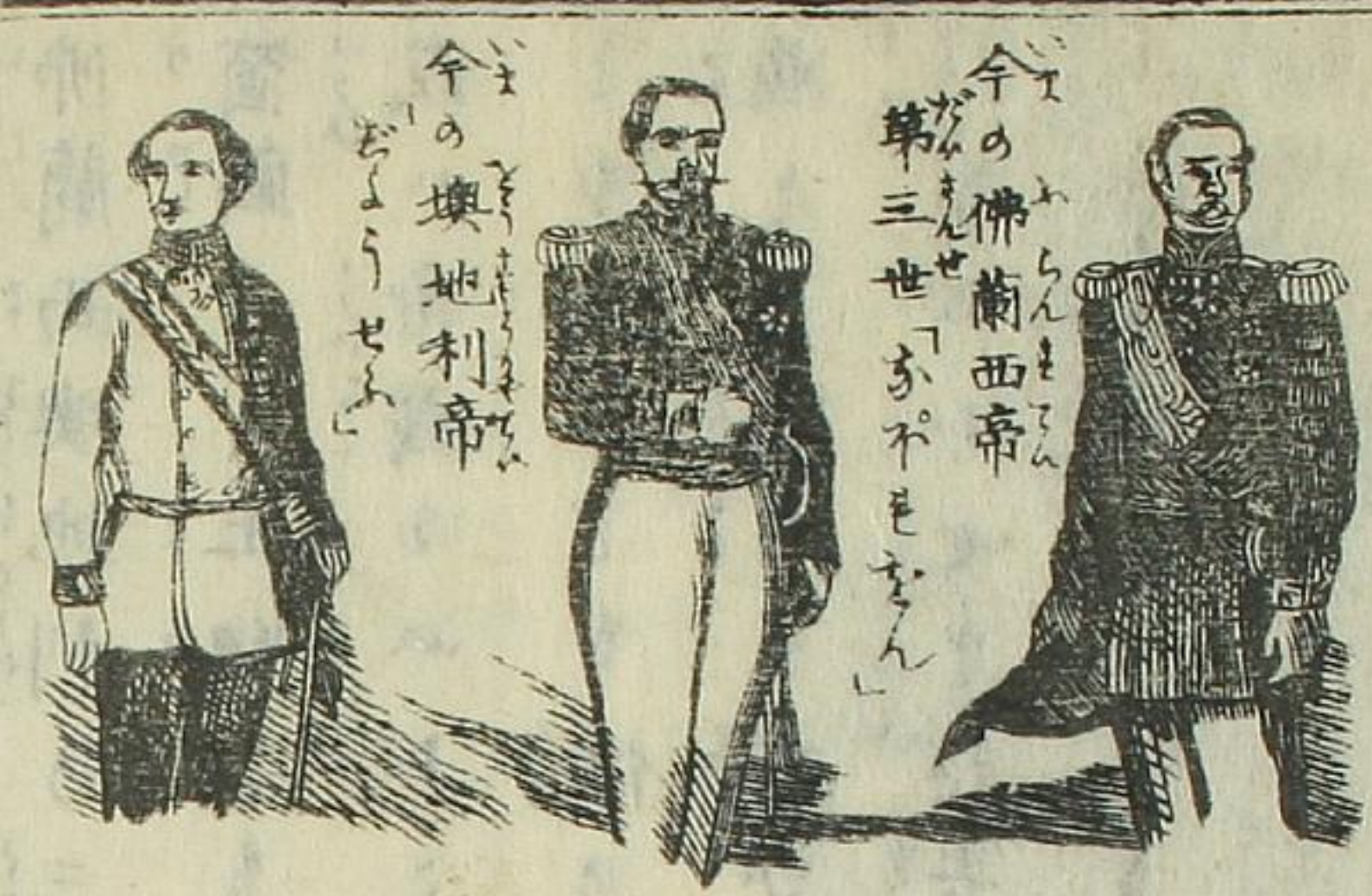
治部、良、苗、多、留、の
濃、尾、湯、下、西、一、面、河
多、羅、羅、海、湖、以、南、北
一、千、里、東、西、一、百、四、百
系、の、内、一、列、の、四

第一の國

今の魯西亞帝
第二世

今の佛蘭西帝
第三世

今の奧地利帝



十九の國は、
弱し、時勢より由り、
沈み、魯西亞帝、
佛蘭西帝、
奧地利、英、佛、
諸國、當り、日の出



今、
英吉利女王
當時、歐羅巴ハ文明
開化、世界第一として
相違も、ナレ、こと、
もと、往古ハ、矢張

の英國、
其の、
校、
本、
少、
少、
人民、
富國、

渾沌無智追々開け
の進む小及でも中
古ハ封建の世とて
専ら武を重んト武
士の威光烈しくと
て町人百姓の難渡
せーことも多かて
一が二三百年以前
より學問の道漸く
行こも人の生計も

兵天ハ一丈の開化の
中心と名を呼ぶあり
けり其業ハ人の教の
行届ま徳を修
免知ハ并た文學

繁昌する小従ひ世
の人皆智を貴で力
を恐るを國の政事
も自然小その邊小
基きて次第小今時
の有様小至りしあ
て今こゝ小渾沌無
知の風俗よも文明
開化小至るよで次
第小その趣を顯し

技藝之美を專し
都鄙の差別あり
法方ヲ建る學問所
幾多あり其教知
彼の産業のありて

たる繪國を西洋の
地理書に寫して
示るこゝ左の如し
此繪を見て世の中
の大槩を知るべし



彼高貴の移るは
兵備整ひ武備足
るに世界之誇り
平れしは源を
一衣冠の勢を
知るべし



の枝は咲かば花
あはれ花見ても
美しき本や枝
うまひなりて
急ぐは途

世界圖畫卷三



○英吉利の本國ハ
さすで大國なり
らむ九日本國位の
そのふもども遠方
小飛地多く五大洲

歩もととに竹路共
し山も西洋の道
美吉利を佛茶西
國北の海指を盤

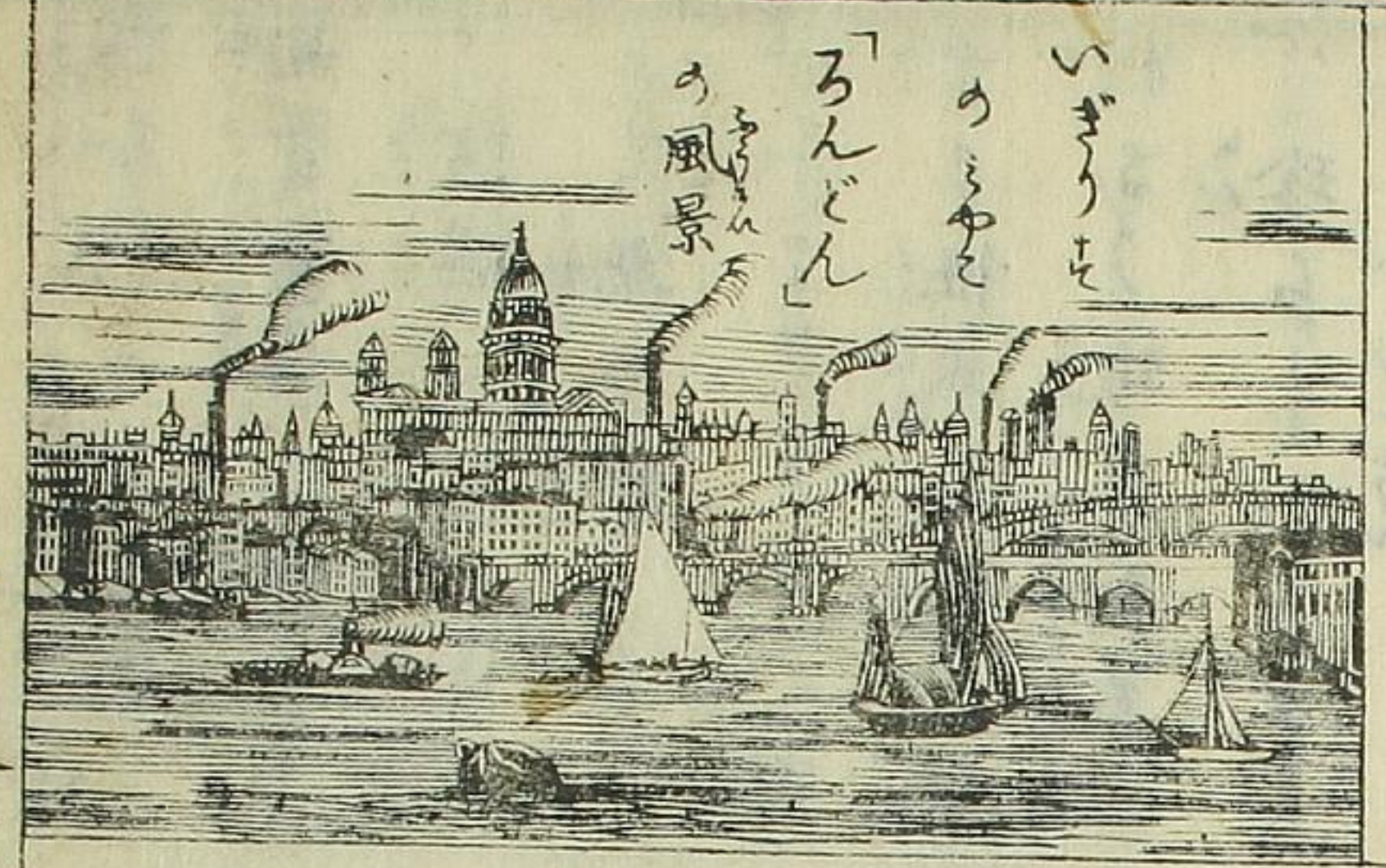
中興大利亞の
分りらざれ處あり
一里四方ありて八
百萬坪大抵世界の
廣さの六分一あり
其廣大魯西亞あり
分らむの廣き領
分小住ふ人の數一

水嶋の國在格
茶河再蘭英倫以
三石を今も金衆王
國の威名輝く一落
五人氏二千九百萬

億八千三百萬人他
 國無比類あり唯支
 那の人別より及むざ
 ろめは
 論頤の外より大都
 會の數多しといひ
 る不ふるびるみん
 こむ蘇格蘭の都小
 をちんふるふ阿ホ
 蘭の都小といふとん

百工農牧田畑産
 物遺る所あり中
 鐵石炭蒸
 氣若械の源を用
 多し
 女無事を知る

等何れも繁昌ある
 市中あり



極く勇ましく水を
 渡りふ蒸氣船あり
 里れ波は思ひ陸
 地は走る蒸氣車
 は人小翼の新工夫

世界万国
 七

英吉利ハ世界第一
商賣繁昌の國也
諸國の船の出入
て港の賑しきハ
ハふももかく國
中の往來も甚だ便
利あり近來蒸氣船
ハ珍らからざも
とも日本人のハ
だ見ぬ蒸氣車とい

飛より疾に傳信
機瞬く暇なく
告る急を飛脚
申す外との新寸を
互に聞て傳ふる

馬も牛も用ひて唯
蒸氣の仕掛にて走
る車あり其疾きこ
と實に人の目を驚
かす大抵一時ハ二
十里も走る中ハ東
海道五十三驛も
ハ一昼夜にて往返
し又傳信機と

の都會は中心を延
武漢河畔の論棟
府陳は世界の
今未だ三里南北を

いふものありとこ
ハ百里も千里も針
金を引張てその両
端小をききとると
いふものありとこ
仕掛を
設け瞬く間小數千
里の遠方へ相圖
て談話のや来る趣
向あり瓦斯とハ石
炭を蒸焼おいて其

百里の間に立修路
軒端、拵の蓋、以
て立、鐘を立、鐘
比、あり、人、口、舌
ハ、十、万、は、来、群、衆、を

氣を引き油蠟燭の
代、小用るものあり
但、此等の仕掛ハ
英吉利のよからど
西洋諸國皆同様ハ
て人の便利を達
夜行する小提燈を
持たせ荷物運ぶよ
馬の背を用ひむ急
用の文通をもとて

故、成、一、概、ハ、三、十
六、萬、有、九、千、の、燈、火
燦、々、と、晦、日、の、燈、火
人、知、く、と、昼、夜、絶
た、し、馬、車、の、聲

草鞋をさひて道中
を馳るそのも亦く
何事も智恵くらべ
の世の中あり

蒸氣車
傳信機



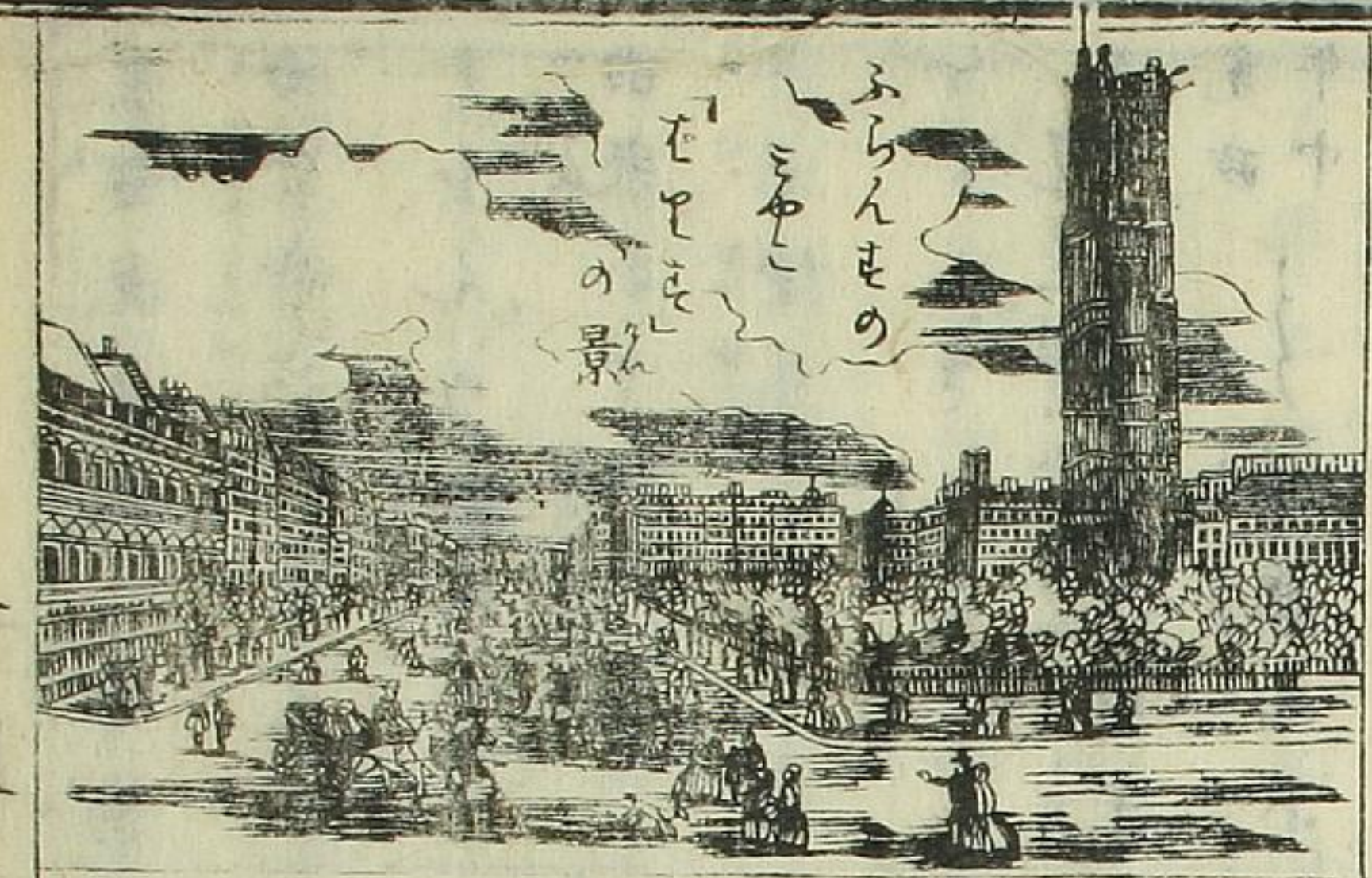
四海の浪を音勢
港に響かす美玉乃彩
中遠望は本林林木
の葉をなぬり河
蒸氣河に架た鉄

英吉利の海軍ハ世
界第一あり軍艦の
數千艘小遊一領分
の地ハ備るハ勿論
始終外國へも出張
自國の人を守護し
て他の侮を防ぐ故
ハ世界中交易の行
するハ場所ハハ
英人の威光最も盛

楊花走る蒸氣車
矢の如く今朝見
友ハ夕暮ハ多里隔る
旅の急ハ旅路
心せに悉ハたり

かり
 ○佛蘭西ハ歐羅巴
 中の都ともいふべ
 き真中おて土地も
 よく開け一体花美
 する風俗おく人の
 才氣鋭くして學問
 を勉め發明多し巴
 理斯の大學校として
 ハ世界お並みき學

一まうし乃日と名砂お
 一々論頓致別電
 一南堂宇宙の際戸
 一渡九里修わ
 一まうし乃日と名砂お



問所おて大先生か
 の集る處あり

佛蘭西國西以界
 以西班牙東名白耳
 義瑞西東西二百六
 十里南北凡二百
 余里南以方北中

士又國畫卷三
 十一

虎留鹿の嶋ハ佛蘭
 西皇帝第一世「オ
 せむんの誕生せし
 由來ハて評判高し
 奈保禮恩ハもと身
 分ハあき人ありし
 千七百年代の末
 寛政ハ佛蘭西ハ
 大乱起りそのせつ
 用ひらきて陸軍の

海と岩近た痛者鹿
 今や土地の廣大
 魯西亞に次ぐ帝位
 の國人口云々七百萬
 其府巴里斯は

隊長とあま生米
 智勇兼備の英雄ハ
 年二十六才の時
 伊太里を攻取り翌
 年ハ填地利ハ勝ら
 向ふ所天下ハ敵ハ
 一十八百年即ち
 我文化元年佛蘭西
 帝の位ハ即ち威名
 を歐羅巴洲中ハ妻

別ハ薩海嶺に及む
 市中ハ明家の義
 業ハ一ハ文士の義
 の好む名ハ西洋諸
 國ハ類ナリ國の

不魯西亞英吉利
の外ハ諸國とも大
抵皆佛蘭西ハ降伏
セシ不どの勢あり
千八百十二年
五十萬の大兵を率
ひて魯西亞を攻り
大雪のためハ難
て克セニ見
次第ハ威勢を落

産物教多し中
シ里國の絹天鵝絨
酒ハ深る心も
人酒銘法ハ程
三百餘年ハ程

遂ハ
の戦ハ打負て嶋
流



佛蘭西帝
第一世

今ハ佛蘭西帝ハ弟
一世ハ不ををん

石教ハ幾百
教志ハ推
國ハ富玉
人の多ハ保
兵ハ亦多ク軍

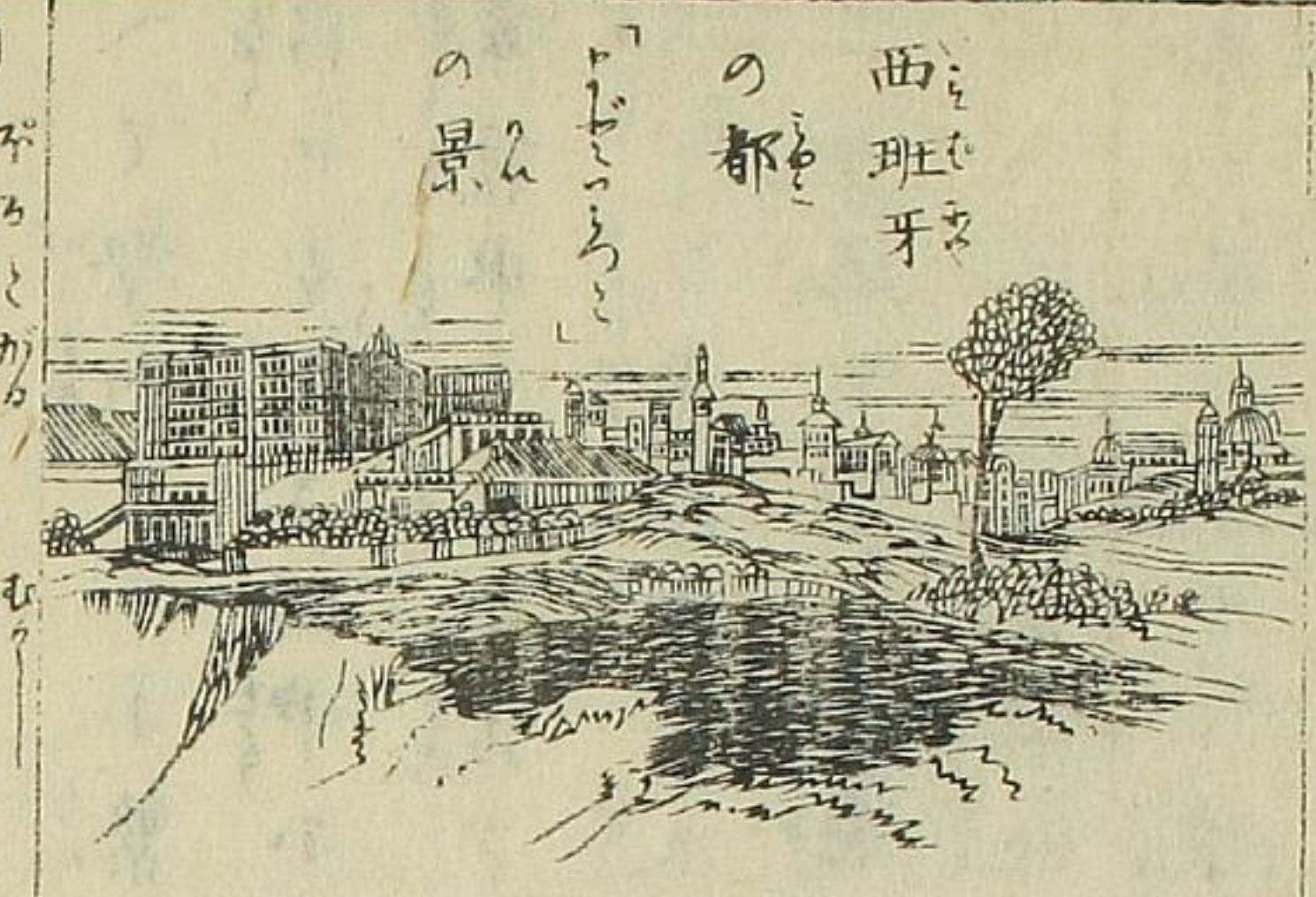
甥不當は第三世が
不きせんといふ此
君も英雄の名譽は
て近來ハ頻小海陸
軍を盛にして歐羅
巴諸國とふこれに
恐るといふ
○西班牙ハ其む
一強大なる國にて
世界中ハ領分も多

大小五百艘陸の兵士を五
十萬軍蓋我彼怒
て去化進退の心
きは西洋一ハ陸兵
と名聲一ハ得し

かて一が近來ハ良
へて學術とも不繁
昌せを廣き國中ハ
蒸氣車の路も甚ど
少一元來此國の人
ハ骨格もよく勇氣
を有れども兎角物
事ハ勤る心なく唯
氣位の高くして
活計の道を勵まむ

地理あり
佛は東西ハ西と南
西班牙國ハ都を
麻土律ハ陸軍ハ名
高きハなをせし人の

頼母一からぬ風俗あり



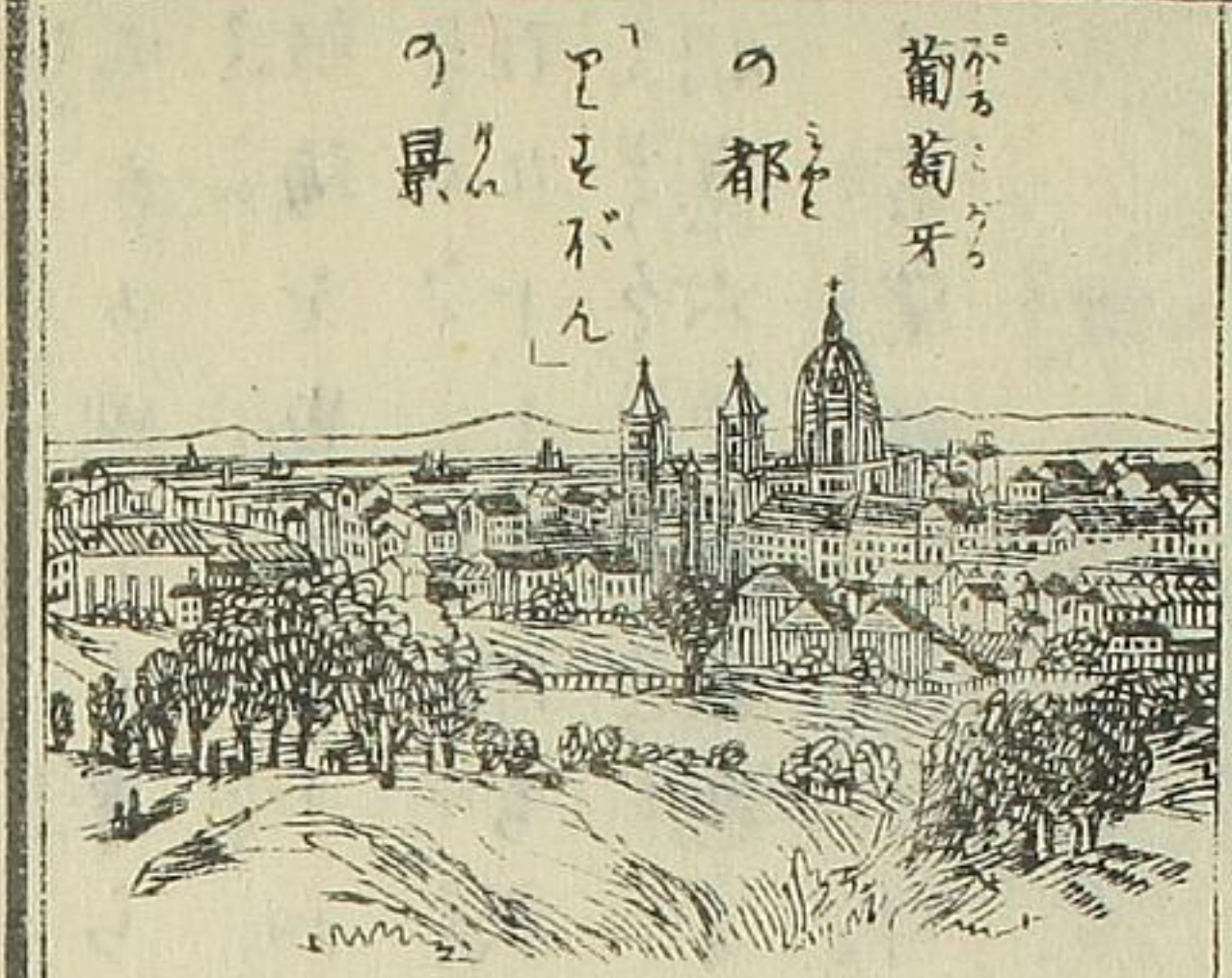
○葡萄牙も昔日ハ

性質懶し勤心
常けきは稲の道
おれはてはの産物
多しり文明并化
乃其様以美を伴

盛なる國小て専ら
航海を勤りて千四
百九十七年即ち我
明應六年歐羅巴よ
て喜望峰を廻て印
度へ渡る道筋を見
出せしも葡萄牙の
人こそこでがま
いふ航海者あり
本へ外國人の來る

小校へ下る遠敷
寺の下有人西
廻り小葡萄牙田
楠の河の河口二并
港里次分冬

一ハ天文十一年を
始とすこれら
でをびんと
葡萄牙の人あり



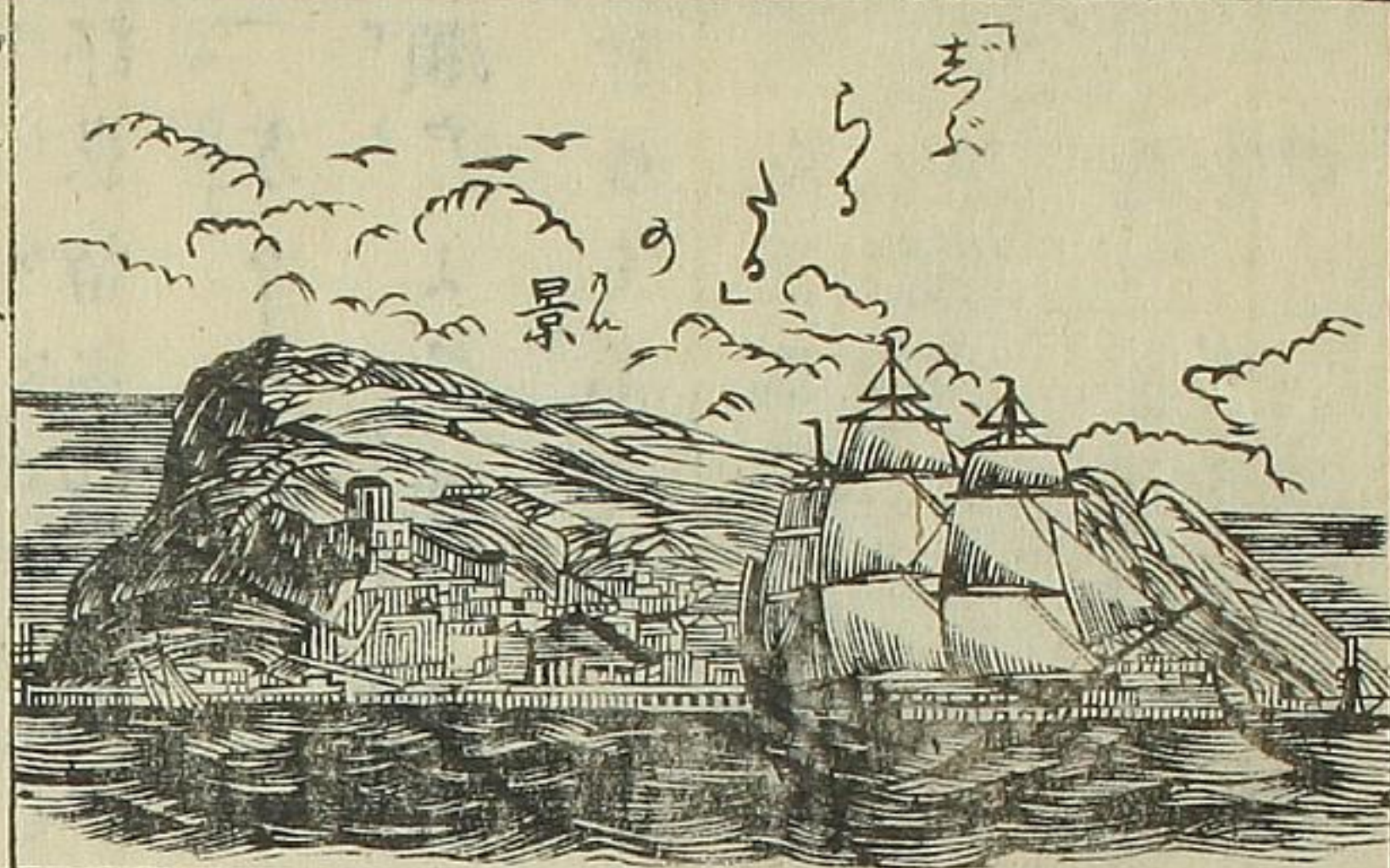
の都
の景

國主住居は都なり
此地の風俗盛衰を
鄰の風俗と異あり
文学技藝は後り
今昔の二つと変

○地中海の口ハ治
部良留多留の瀬戸
一方は多留の瀬戸
瀬戸より潮の流れ込
むのそおて外に出
ることあり不思議
ある場所なり英人
のあつ小臺場を築
て狭き一方口を守
るハ巖の口おめて

目以経馬より
里須益以港を去
立戻り南東より宗
出せは潮の流れ失れ如

其紐を持つて如く



地中海ハハ

「治部良苗多留の

濠戸の口南北僅六

七の南の「何水利

加洲北の對する歐羅

巴二大海の玉堀治

部良苗多留の要害

地中海の喉頭地

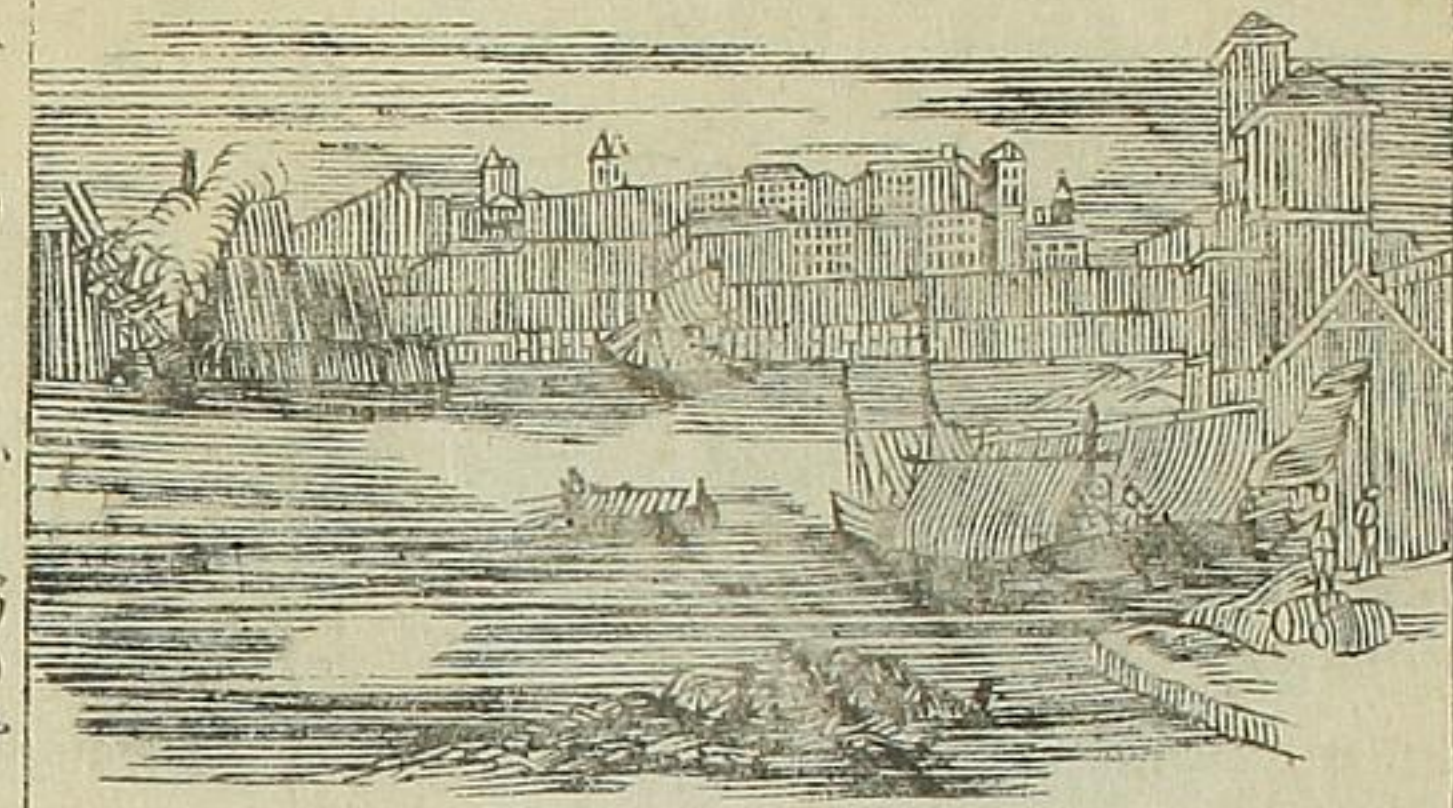
程矢陰小控の築立

た。砲臺は「あ古不

動の大盤石喉押

るたるの外ハ又丸
太といふ嶋のりて
これも英領あり其
臺場の洪大ハおぶ
らるたるハ方らど
英人ハ此二箇所の
要害を占て地中海
ハ威を振へる本文
ハ喉押て背を打つ
ハこのあとあり

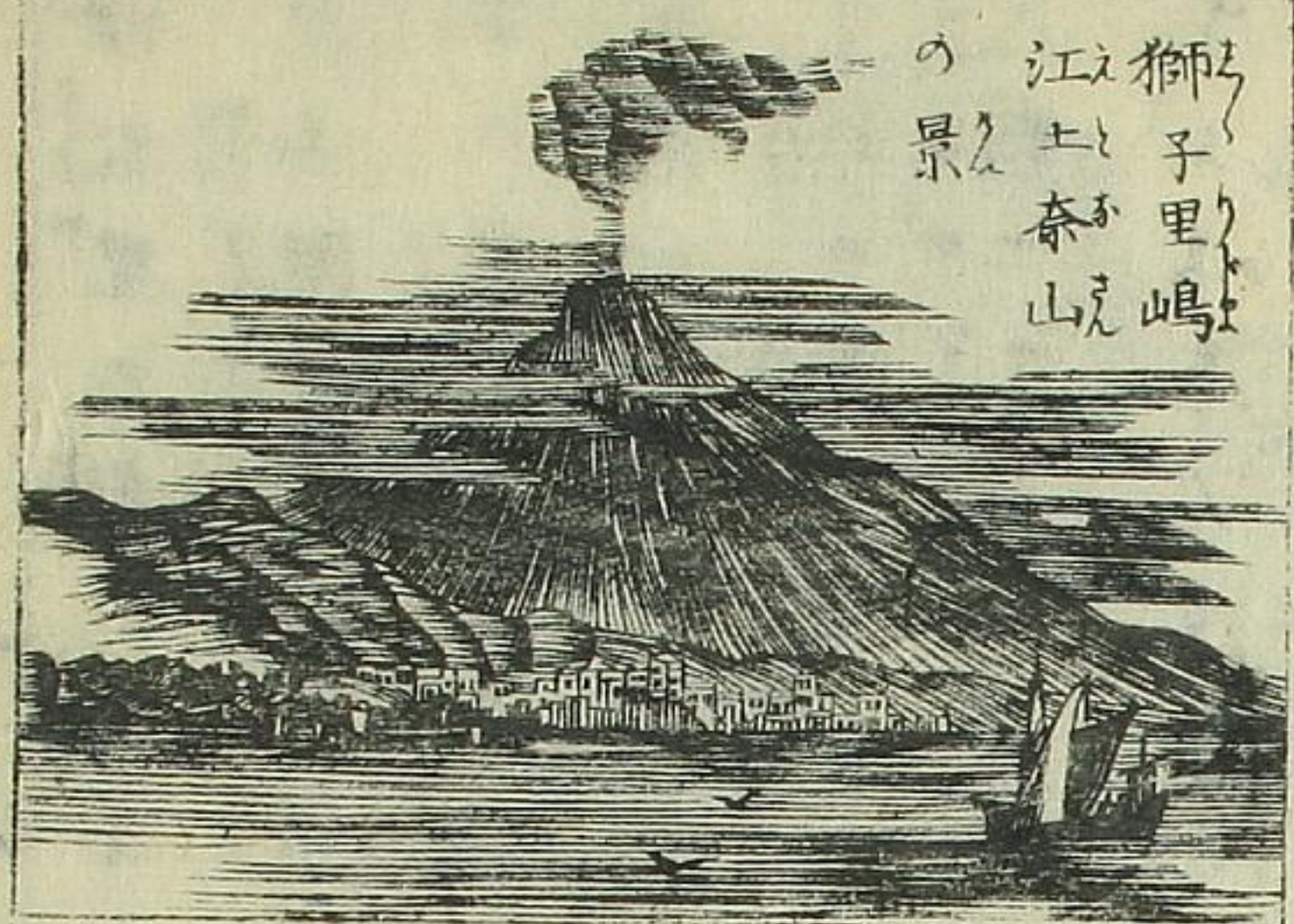
丸太嶋の景



○獅子里も伊太里
の領あり大山の
江土奈山といふ

宵臥打つ美吉利
人の権勢を地中
海に車轉たし恐
水魔うぬものけを
一階戸を廻すは

高さ一萬尺余海よ
望み見るべし歐
羅巴の名山あり



獅子里嶋
江土奈山
の景

馬里苗嶋東方の
猿路に屋椰子里越
伊右里國細く長
くも靴し玉の状
を擬し獅子里嶋

伊太里の南の方
ハ山阪多く北の方
ハ平地多し氣候
も南ハ温たう北
ハ寒し國中の
人別二千萬人余都
をふるきんをとい
ふ名高き學問所
元來伊太里ハ舊
き文國にて古代の

靴先以指の度
あしりん國の南
三百里少し増
河百邊山南ハ海
突出一一可羨利

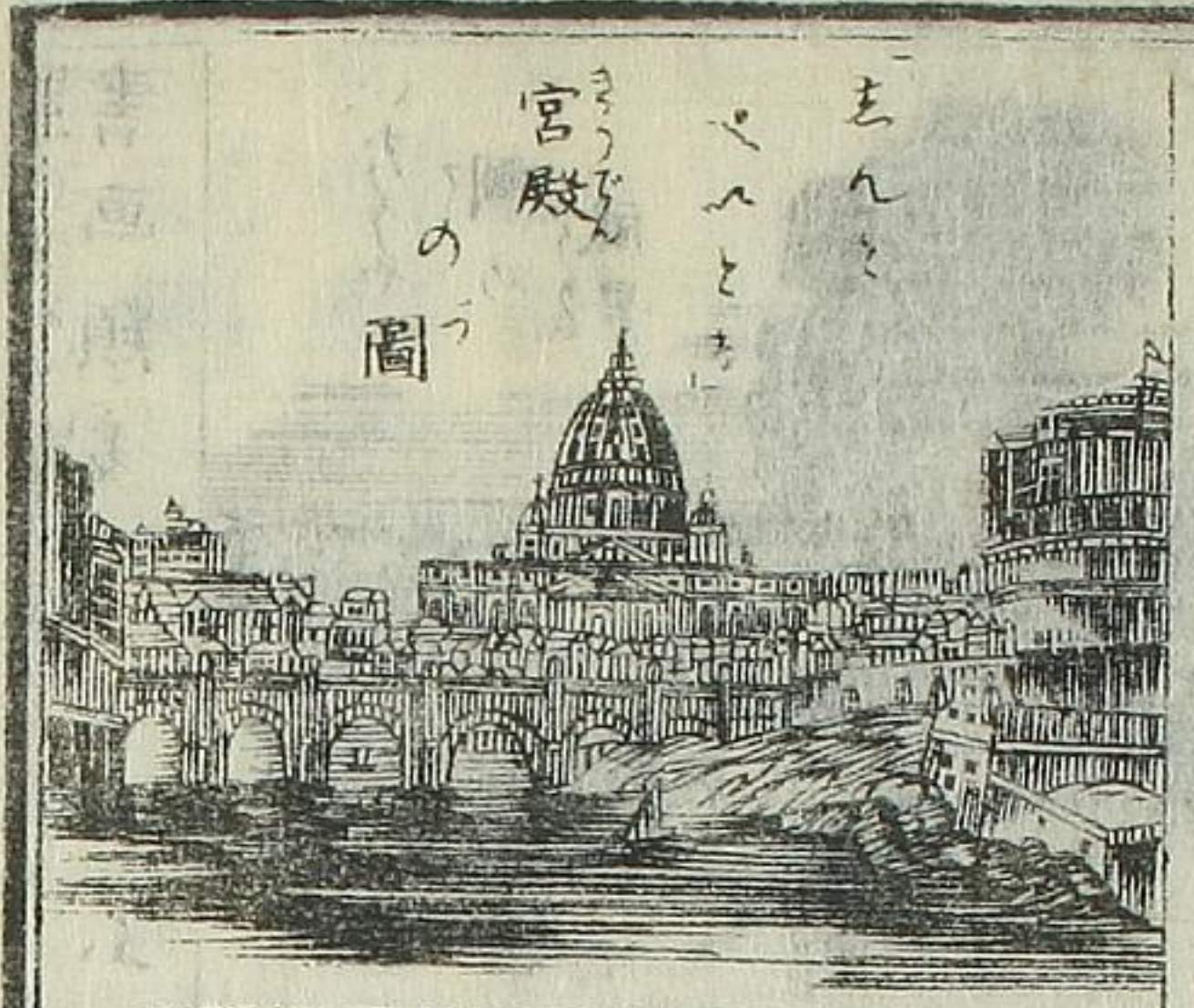
書画類多しといふ



法王の領方も近來
ハ大小衰へたきと

地味紀を四の
天氣快く吹ふハ
山の色多し秋の
水の聲ハ山と川
越ハ天の雲秋の好風

も名所舊跡多くお
んとべいといふあど
以へる宮殿ハ目を
驚かす小足きり

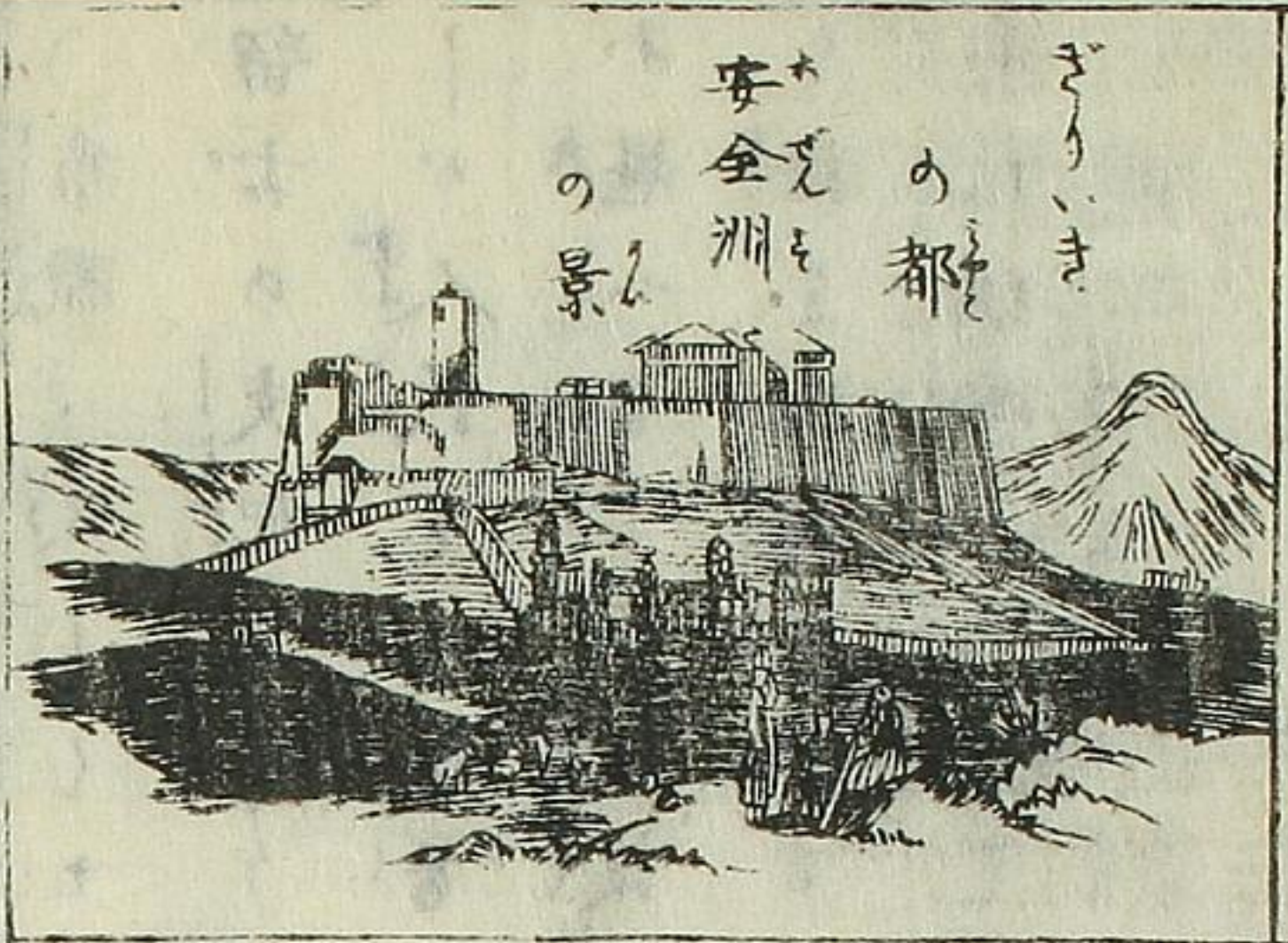


京北の法衣いやはや
く山田は須も桑の苗氏
の梅を前か人西
海岸は羅馬飲は至
所字の空を北は

○希臘ハ久しくエ
留古の支配しりり
一が人民その艱苦
小堪へきして恢復
を謀る他國の人も
同情相憐としてこも
を助け千八百二十
一年の頃より數年
の苦戦して遂に舊
の獨立國ハ復した

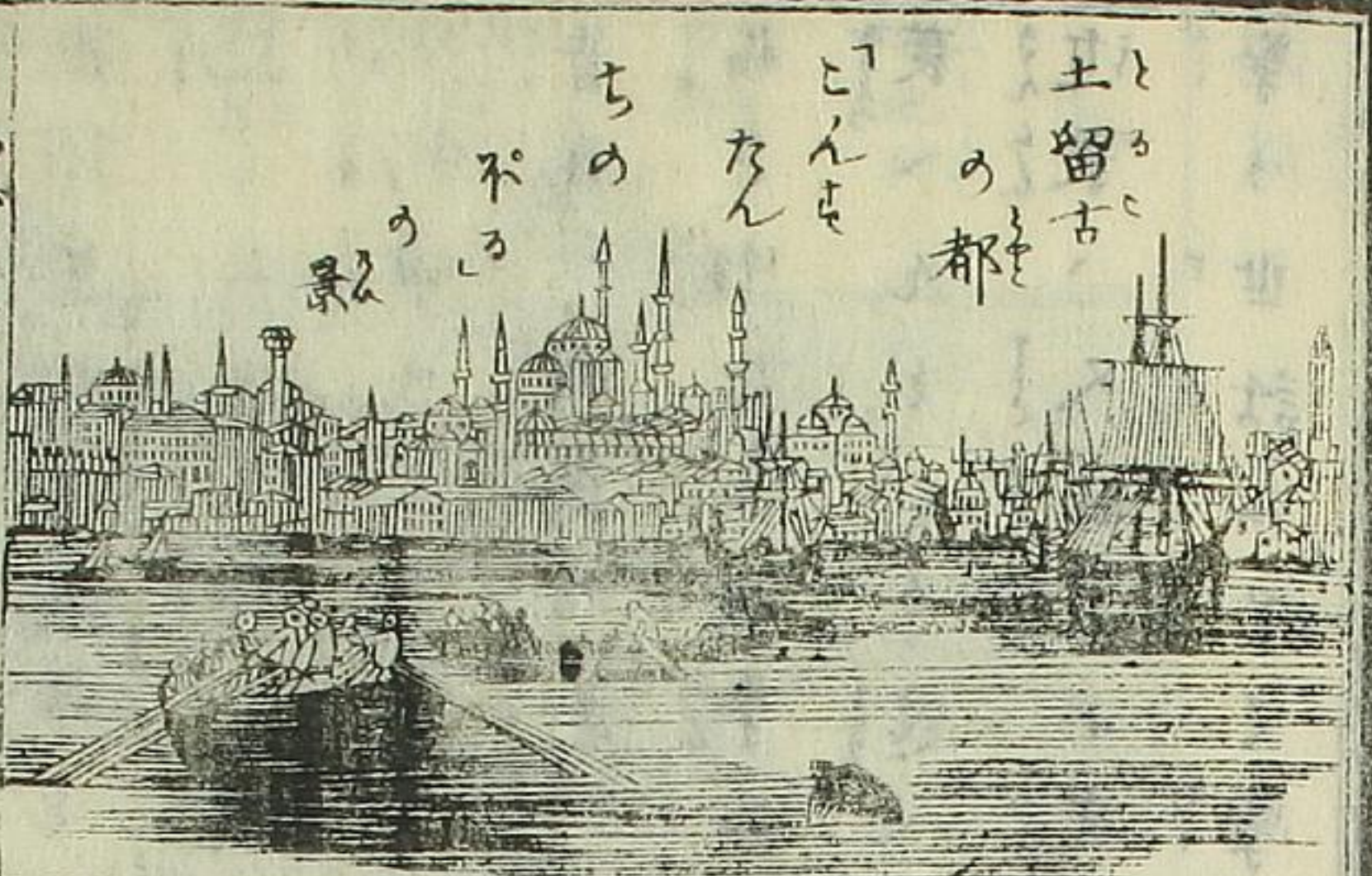
石所舊跡より
お月
伊右里國の南より
東へ渡り希羅各
由來を了りた玉を

十國中の人別百三
 十萬人都の名と安
 全洲といふ



今ハ風俗衰へ
 昔ハ礼儀ありて
 北の隣ハ苗古
 人情粗く死一
 大國人口二百

○ 圯地利の人口ハ
 三千五百萬人領分



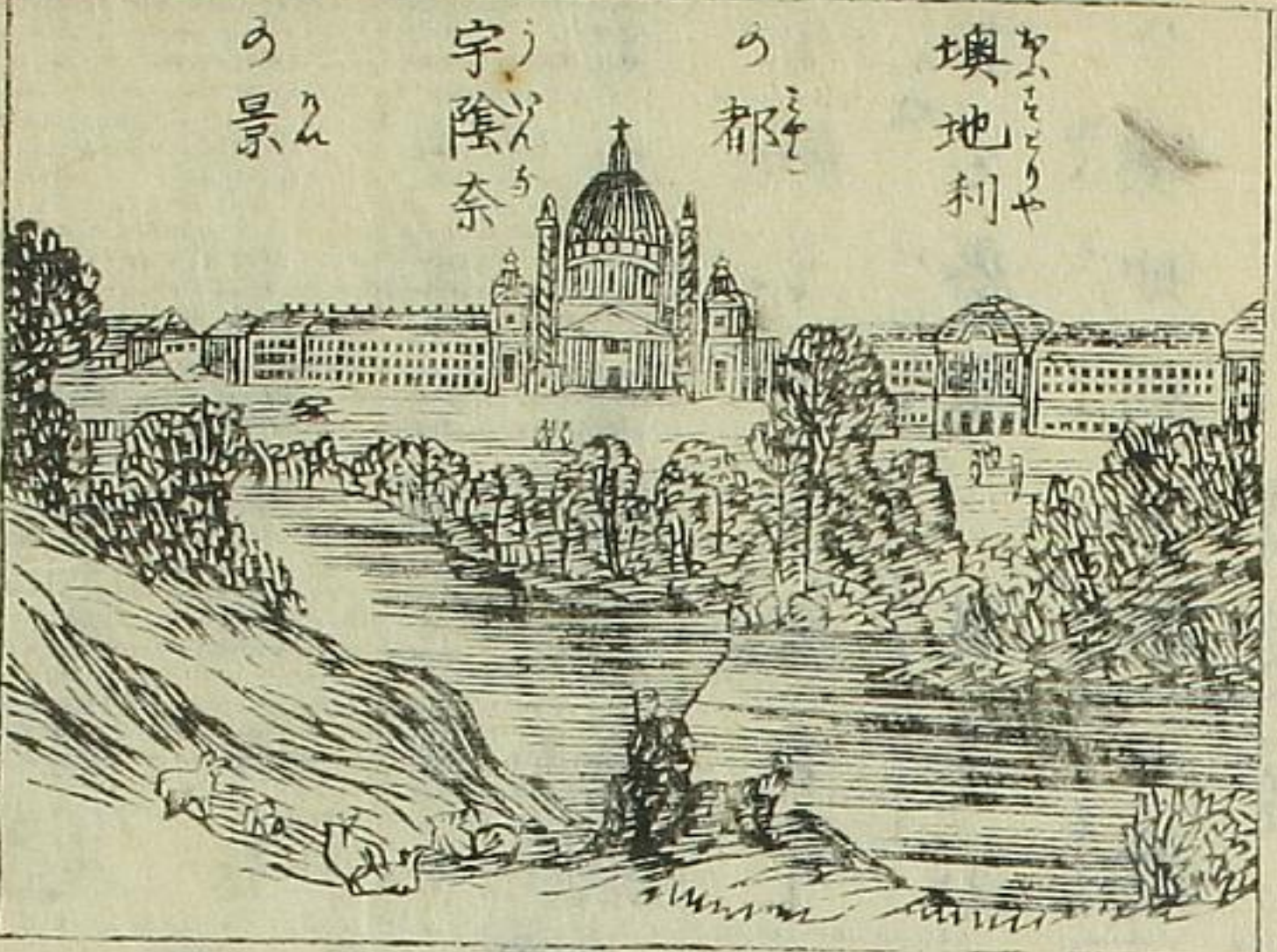
東王の東西ありて
 東を無細を押し
 飲一布ハ政府を
 歐羅巴帝ハ威
 権限た有目百

世界國盡卷三
 二十一

も廣く由來久しき
帝位の國あり古き
翻譯書の獨逸帝と
記したるハ即ち埃
地利帝のことあり
昔日ハ國民の教行
届き中ぐら次争ひ
衰へんとする處
近來ハ又類々小文
學の世話にて學

友折まへて海をこ
枕も急風知後
や月しく威徳く
百多あり生民我
慄くても孝あり

問所かども多し



○普魯士ハ歐羅巴
五大國の一ありて

土苗吉北の埃地
利魯佛の立ふ一帝
國東に灌く駘八部
の河以畔乃今陰を
ハ皇帝臨御の大都

文武の盛なること
至きて盡せしむ
ふべし國中の下人
木飲百姓小至るま
でも字を知らざる
者なく調練の歩法
を知らざる者あり
去る慶應二年八月
ハ 壤地利と戦て勝
利を取て其時敵へ

會國一一生産物
之穀粟菜芋麻葡
菊金銀銅鉄多し
と地より出するは皆
士國人口一五八万人

一味の小國なり
ふを始り六七箇
國を滅して其地を
并せ元來一千八百
萬の人口増して二
千二百萬余の數小
上きて斯る大戦争
小日を費したるハ
僅小五十日ばかり
あり當時西洋にて

民以教の行ゆれば貴
賤男女以差別あり
孝公知し者なる
文備て武備起
兵士三十一萬人

こまを七七日の戦
と唱へて古と違ひ
何事も手早くなす
し今の世の中あり



魔の舞は多勢の四カ
隣の国と七五
南北方の小國ハ
宇多天保留富

○瑞西の都をべる
んといふ時計細工
の名所あり此國ハ
山國にて人皆質素
儉約且勇氣あり故
小國おきども外
國の輕蔑を受けむ

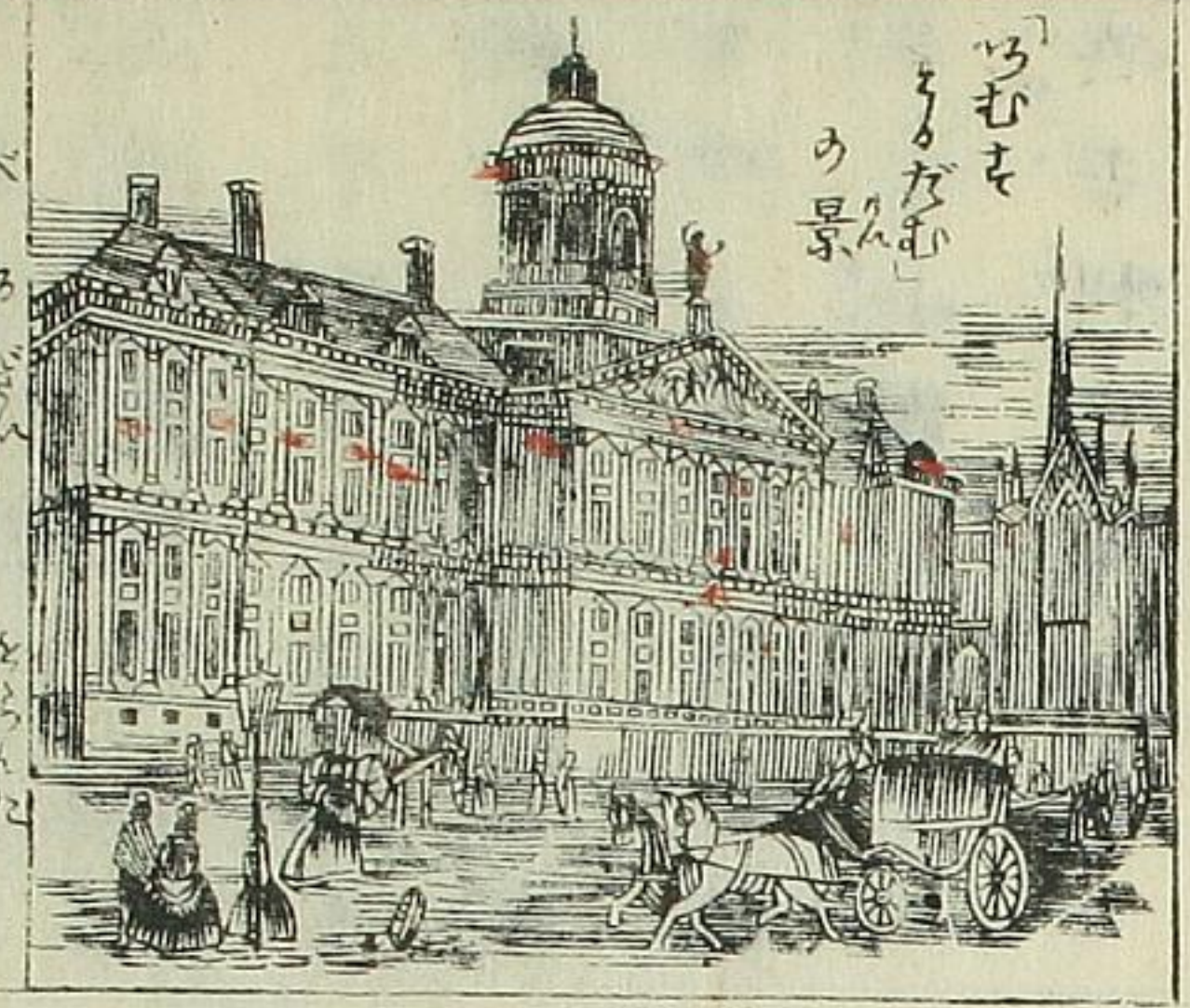


馬和里屋等西北
堺の禮洛河と乃
源をなすは山阪
高平の瑞西國の政
事ハ共和政小国

○和蘭の人口ハ僅
小三百六十萬
とも諸方へ飛地の
領分多し國の人皆
藝學を勉め殊に海
軍ハ此國の得意
都を「ワグ」とい
ふ市中奇麗なとど
も繁花からど國中
一の交易場ハ「らむ

此の
一様
文書
百
工技藝云手取
他の侮は被り
陰の流地
乃

港あり
ととらだむといふ



○白耳義ハ和蘭よ
を分けたる國を

河瓦以和蘭は
中之山見ぬ
平地
患は来
後乃巧
諸方

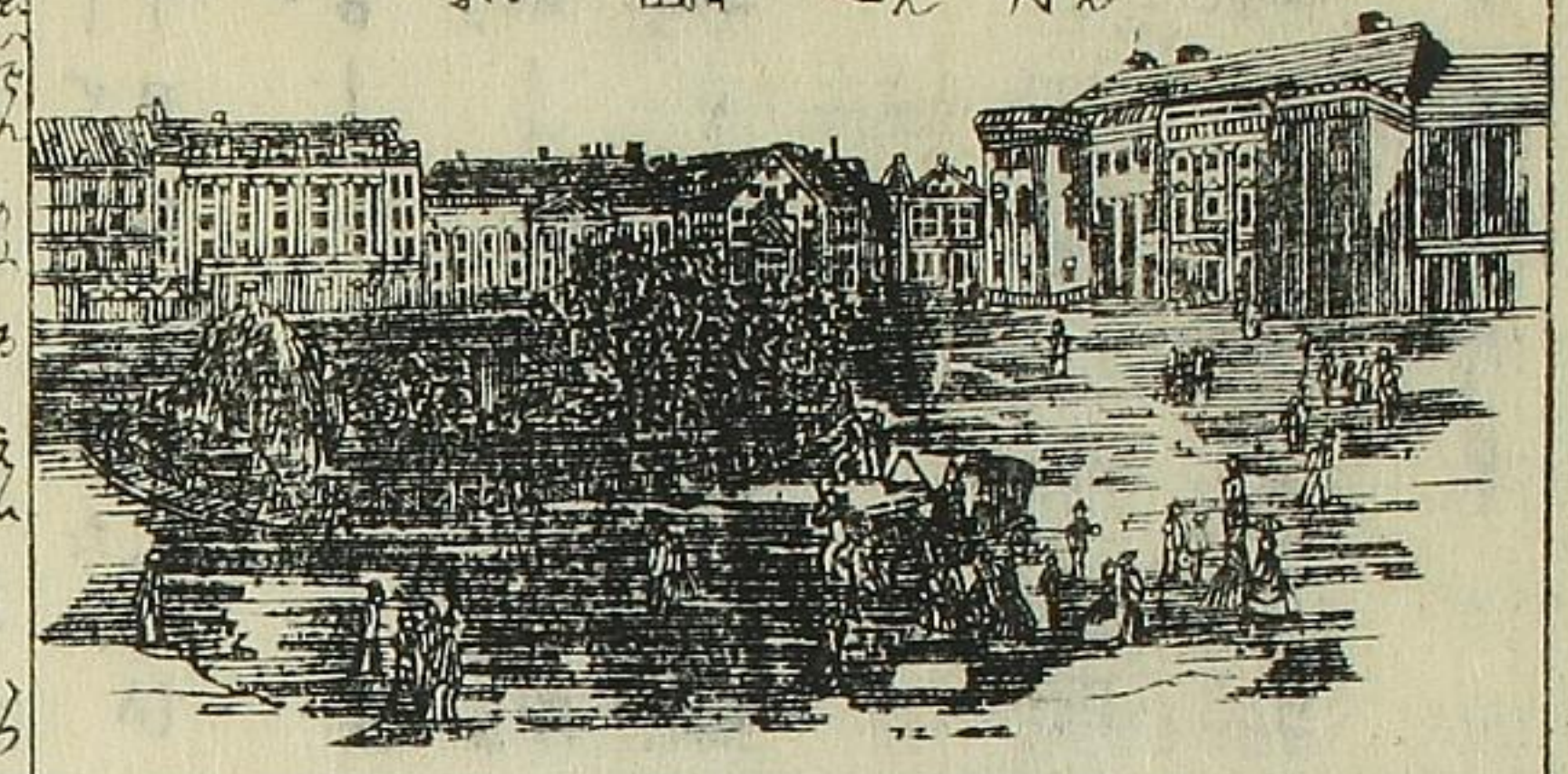
ども全体の土地柄
和蘭よてもよく
且國民農業不出精
少くも不毛の
地あり鉄石炭も領
分中より出製造物
多し小國おれども
英吉利の風
○昔日連國ハ名高
き強國小て今小至

築く土堤塘田畑の
業しし精しし花
の産物少くは諸國
渡り出交易人此
衣食も饒なり西

るすて諸方小飛地
の領分多し元治元
子年日耳曼と戦ひ
見苦しからぬよふ
防禦したまもも衆
寡敵せむ遂に和睦
して南の堺不るを
ちん近傍の地を失
ひ國の人別五十萬
人を減りたる

の隣り白耳義
と和柔の土地
主風俗も異なり
農土畜物を生産
はるかに倍す人

骨片波遊園の景



○瑞典能留英ハ一政府の支配おもと

情多國ハ富強也
志も一なり

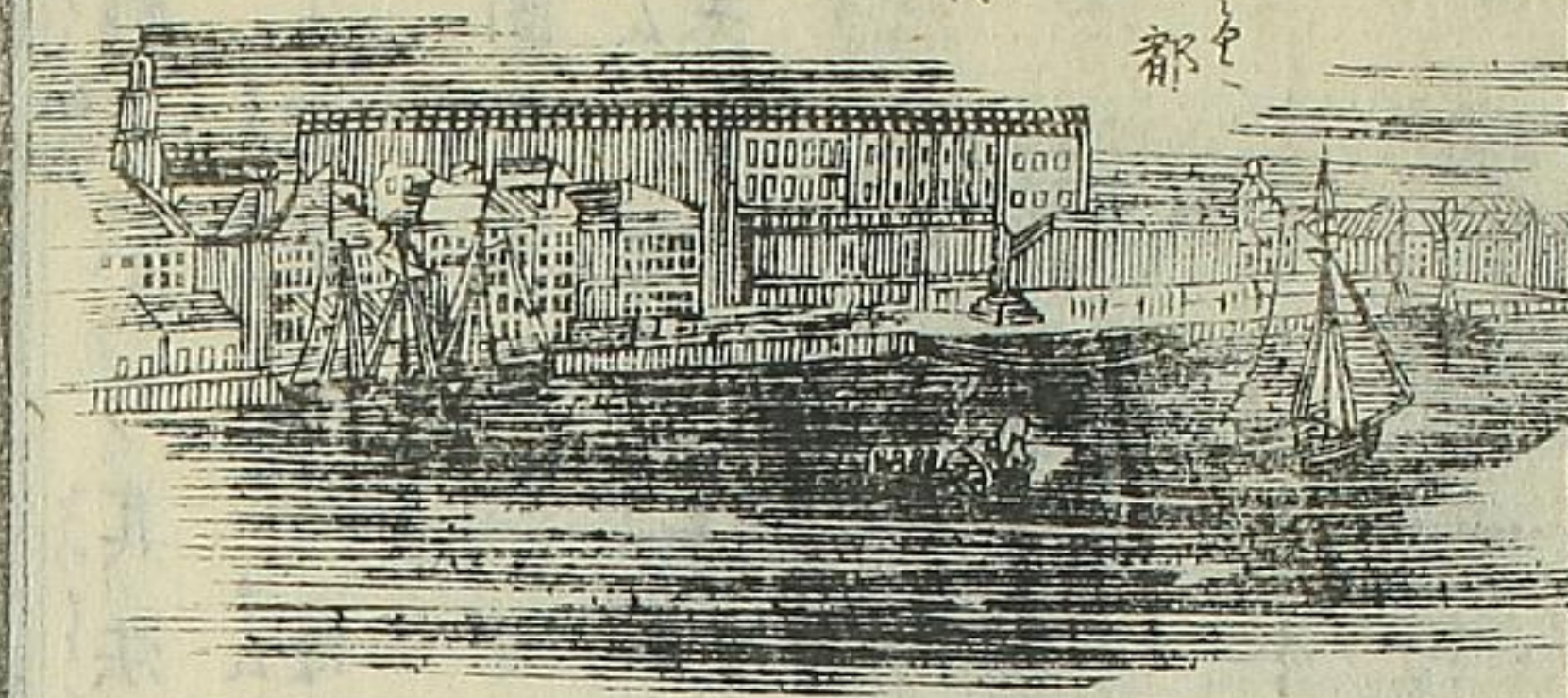
白耳義多き其地の方より付く先は連國都は骨片波遊

兩國自から其法律り瑞典王ハ毎年數箇月の間必能留英お行て其國事を治るを例とす瑞典ハ蒸氣車ハ路少一旅行もろハ道中筋の百姓よ馬を出させ三四里の宿次おて

とて中可交易場
波片以渡北瑞典
西の隣に能留英西
東の島五洲一合
一五五西の都を鑑

人を乗せ荷物を送る
國法と云

瑞典の都
須德保
留武
王宮の
圖



沈知屋奈東、沈徳
保留武、其、者
ぬ敏不毒、以、地、不
の、人、を、合、と、身、は、乃
教、甲、百、三、千、第、一、地、

○二百年以前
ハ魯西亞の小國
て且北方の田舎國
あまバ學問の開け
が人氣暴くして殺
伐ある風俗あり
元禄年平土留帝と
ハへる英明の君出
て一時小國を改革

の氣候寒く
閑け、先地、稀
がれと、女、穀、菜、実
と、塔、山、り、出
金額、中、小、鉄、は

英佛和蘭等の如
き文明の國の風
をらひ學校を設け
海陸軍を建て内を
守り外を攻め歐羅
巴諸國と並び立つ
る一夫の基を開
き今日に至るまで
威名を世界中に轟

極ありて世界無類の
名ありて
次由保苗武元港よ
ますはははははは
東を帝國魯西奥の

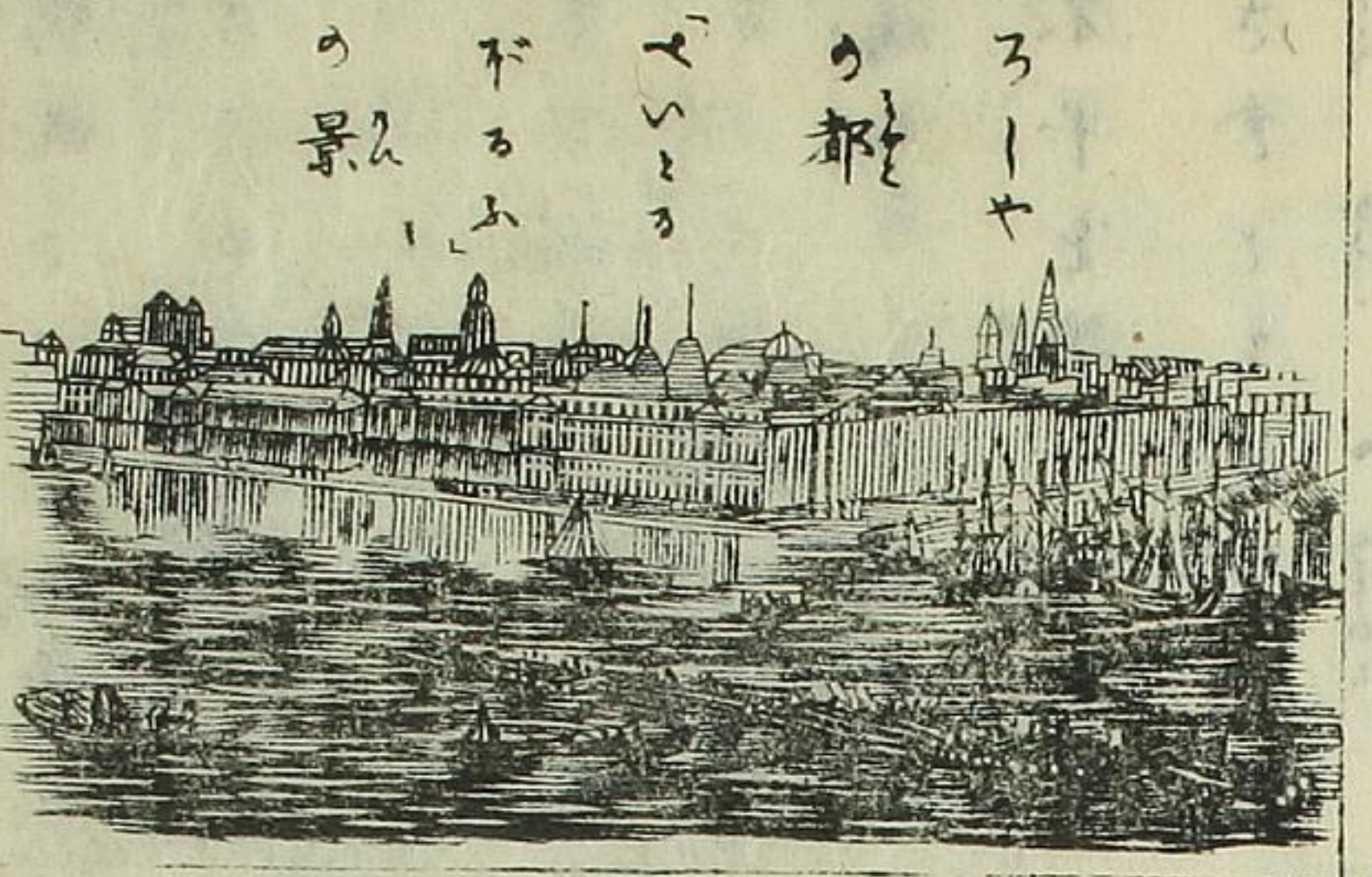
か
平出留帝



魯西亜の都ハ
も
あ
の時ハ北方の海岸

都
苗保苗府
西奥の
本利加歐羅巴
と
東西

新小都を開き
平土留保府
と名けり奈和
ふ河の畔小町
當時ハ歐羅巴
小も数少なき
會しを色と但
氣ハ甚だしく
の間ハ河小氷
て海も氷の上



魯西亜ハ他の
の都
の景

を往來する

余皇南北一千里
界此土地を六
一と有る一政府
皇帝一人の
皇帝一人の
皇帝一人の

美一人の
る皇一人の
と都鎮る
の治一乱
終の

世界圖畫卷三

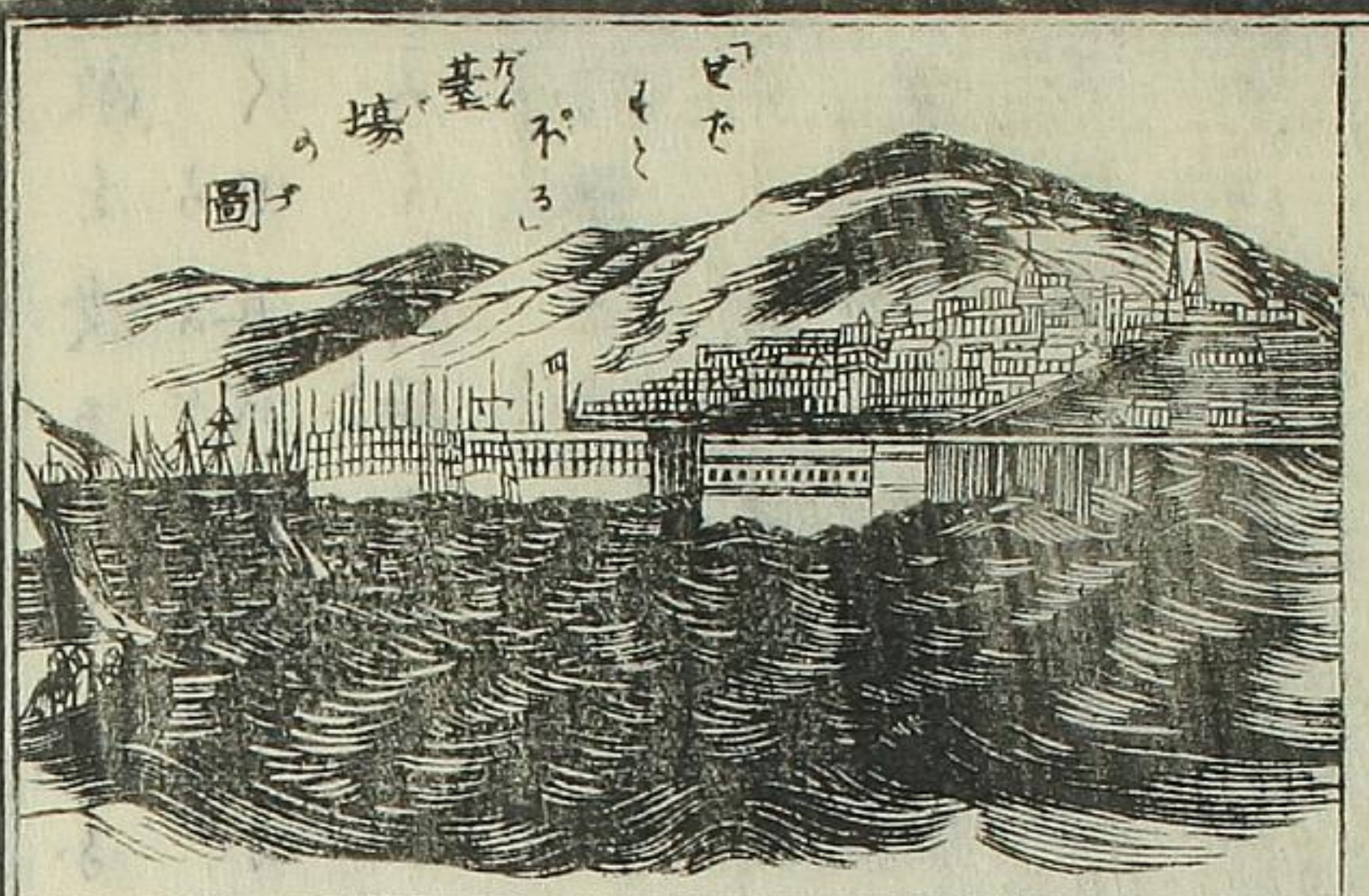
巴諸國と違ひ立君
獨裁といふ政事の
立方おて國帝一人
の思ひ通と勝手お
事を捌く風あり故
お下々の情合上お
通りぞし國中お
不平を抱く者多し
さきとも其國柄北
方お偏して外國の

懈たるは兵士の教
を字萬國の法方
設けたるは九百の字
校ふる九千五萬の格
古くは智ふは藝

敵を受ること少お
く其武備格別お
よく行届きたとい
外敵を受るも敗北
せしことお一既お
安政元年英佛の大
兵黒海よる入らせ
ならずならずといふ
處を攻めしこと何
れとも敵味方五分

物ハ五穀獸類等
烟草今良苗山に
了る金銀銅鉄穀

の勝敗ありし心



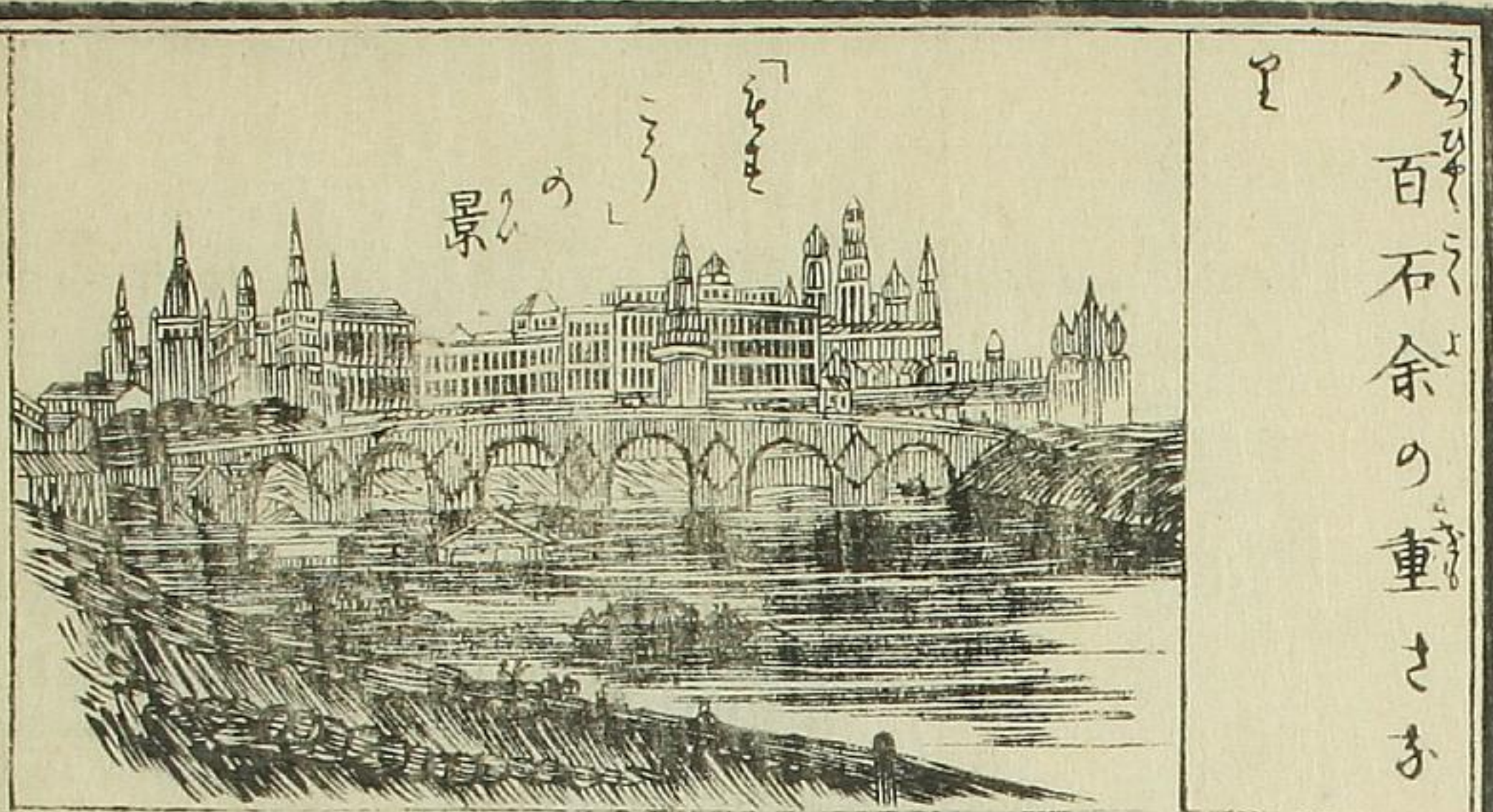
此交易の繁昌は英
法諸國に及ぶぬに内
不勤る農の業は力
は日よ増し月も弘る
岬の地は守て南

の舊都にて西
の南ふの東南百
七十里をかすの東
小なり蒸氣車に乗
一日おて達すべ
隨分繁華ある都
會あり千八百十二
年「不」をんの大
兵攻入るしとき魯

攻免西の遠くは黒海
より表海の多の
さしは支那の
満州も半を魯西
亞に并せし朝

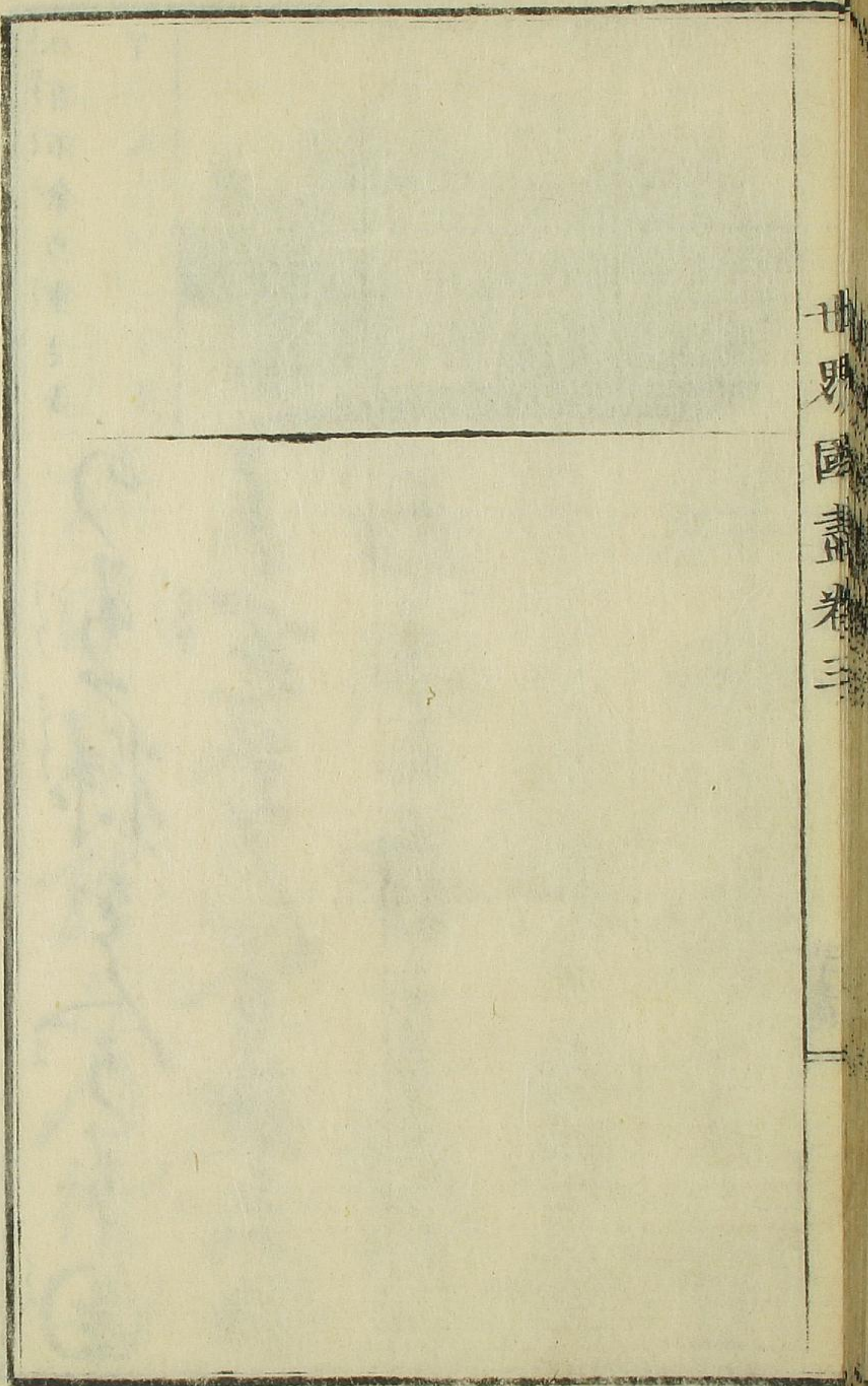
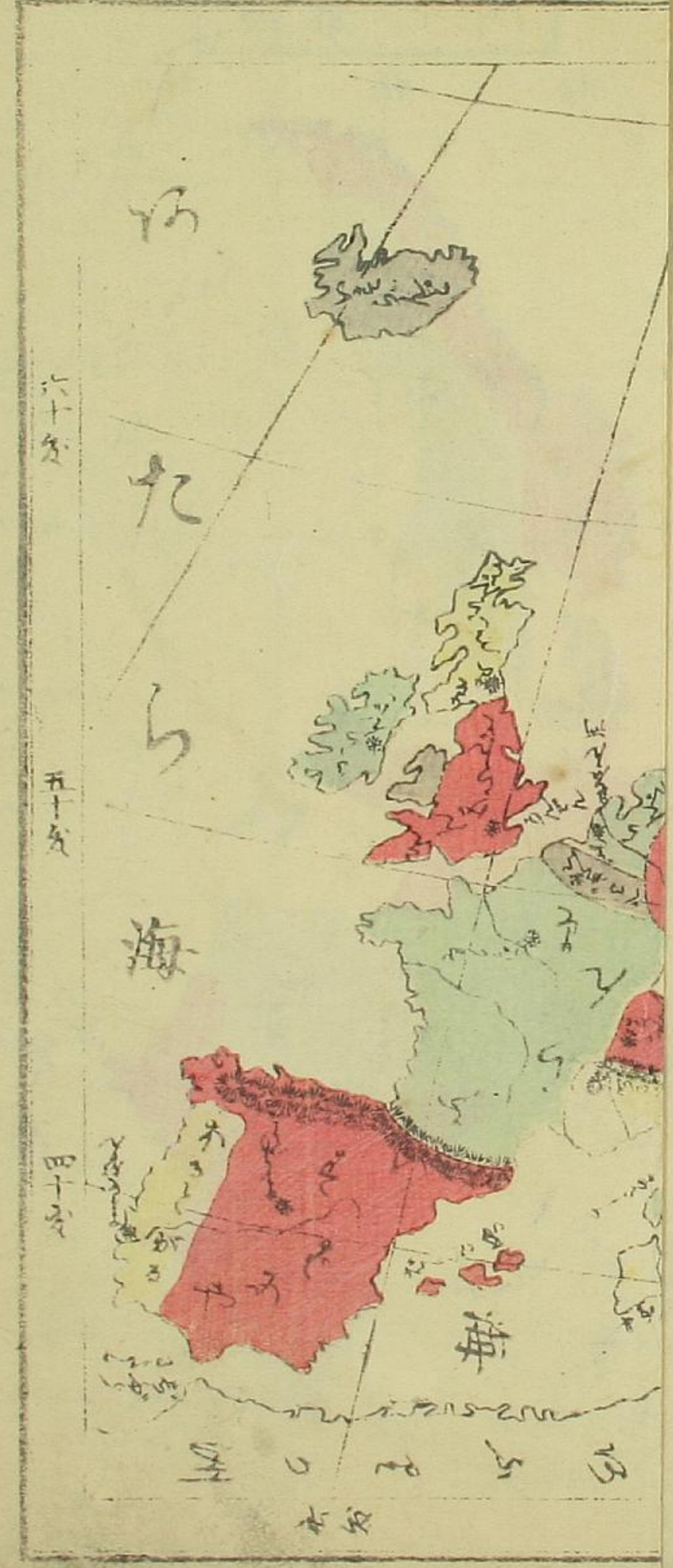
人ハ自から市中を
 焼拂ひたきども其
 後すこ普請して却
 て以前よりも奇麗
 あり市中小寺院多
 く名代の鐘りの高
 さ二丈一尺重さ千
 六百とん即ち我四
 十三萬三千六百貫
 目米おまをば一萬

鮮國以堺を執
 せし。双頭の鷲の旗
 新陽を其成切を
 急ぐ。ぬは云ふ。此
 城望心就少行末

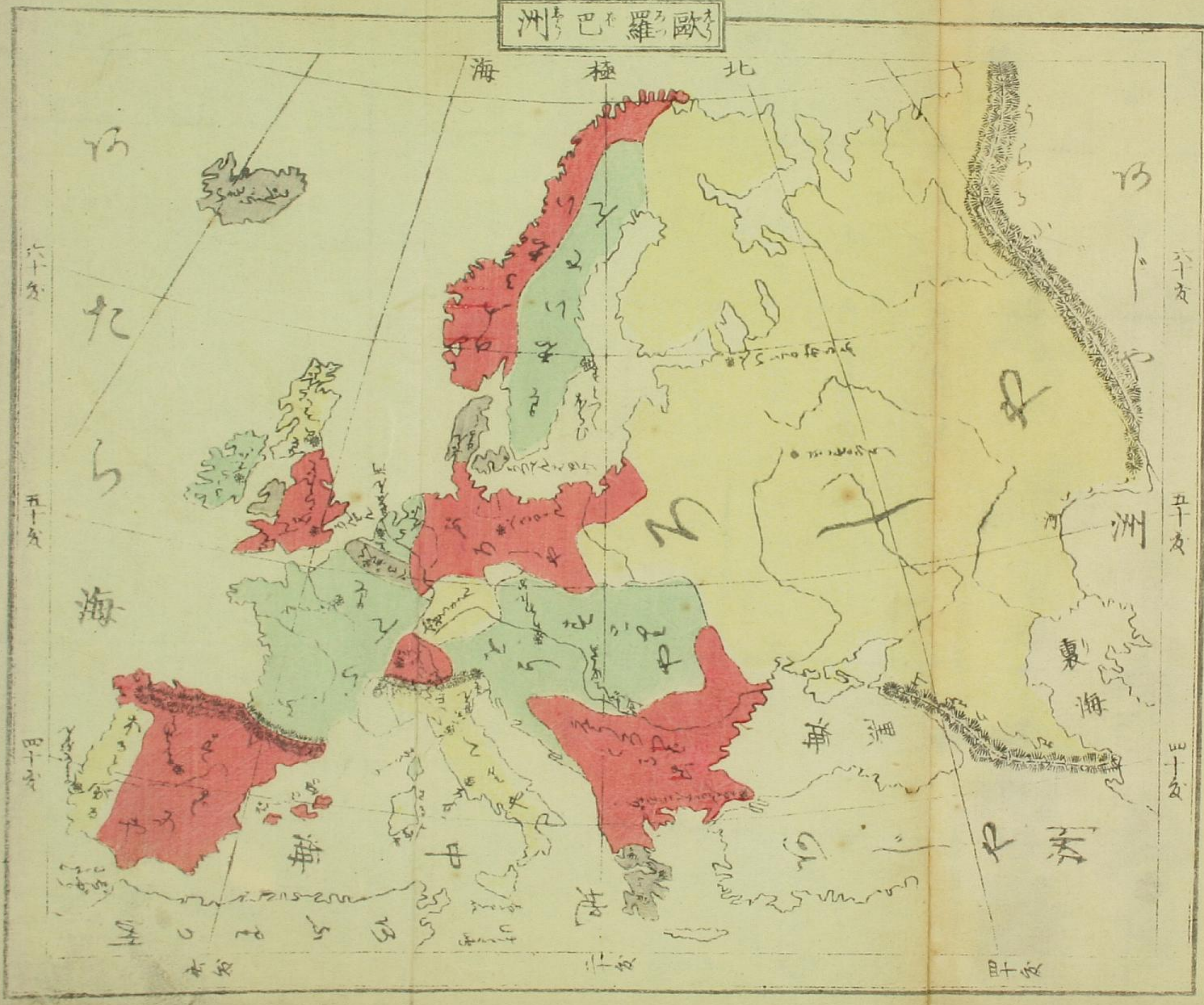


八百石余の重さあり

のみ様を今
 見し難しん



歐洲巴羅



古論武子



北亞米利加の事
千四百年代の未
代の時伊太里古
武士といふ人
羊の毛績ぐ貧しき

士良國蓋卷日

北亞米利加洲

亞米利加は西の海に

新世界を以て

横たふ事北の島良

尾の岬より南の瀨



家の子ありしが航
海の術を心得其志
を所凡人小はらば
獨り自から考ふる
ふ世界の状圓き由
一東の方小印度か
どの土地は西
の方小も必だ地方
のるべしとて説を
立西班牙の王小説

戸の麻漉蘭一長
さ四百二百余里
みまろ二大海比裡
の續ハ巴拿馬た
地峽の互二千餘里

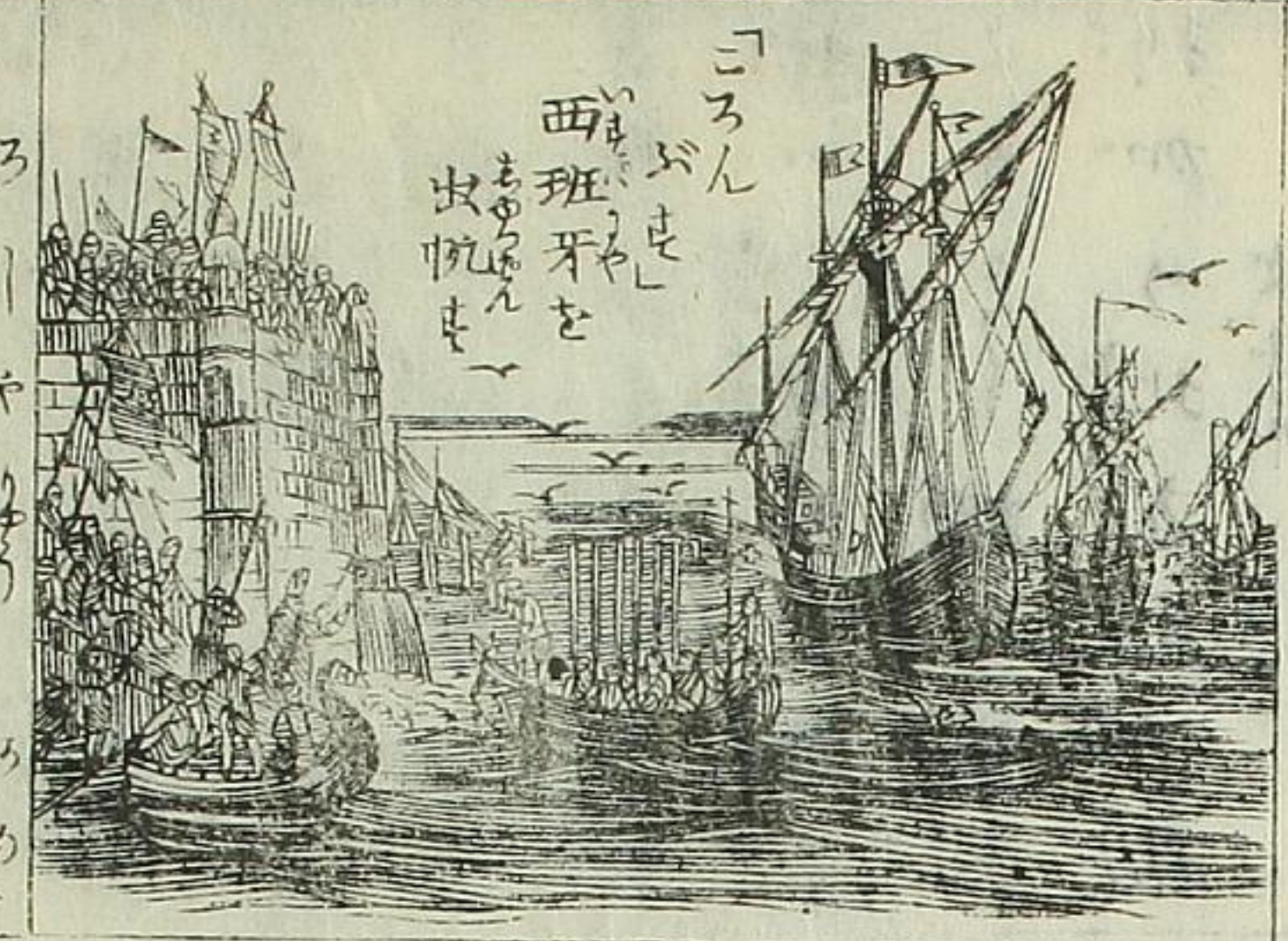
き王如の助を以て
船三艘を仕立西一
方をさして乗出せ
一果して陸地を
護明一たる頃ハ千
四百九十二年即ち
我明應元年ありこ
の人類小往來して
よき地面を見出し

東のりる河多羅
海一子廻るハ古平
海一西の方日本
北に來利加渡
海一厚保島行

見出さず小随ひ本國
 人を移して新
 地を開闢し得る所
 の利潤も多し土地
 の模様小由り地理
 の學者ハこれを南
 北二大洲小ち又
 亞細亞阿非利加歐
 羅巴を舊世界とハ
 ひ亞米利加を新世

北亞米利加の西の隅
 あり北亞西亞領
 の大洋あり北
 五百餘里世界分三
 北港あり東西二

界ともいふ



○魯西亞領の亞米
 利加ハ唯土地の廣

夫北の土地を廣く
 水と人氏僅なる
 空を象徴しく夫地瘠
 人の標漁樵のみ
 夫のす人跡を

きのこして産物も
少ふ一慶應三卯年
合衆國の政府七百
二十五萬どるらる
の金を以て此土地
を殘らば買取と當
時ハ合衆國の領分
とあきり都て亞米
利加之北方不佳居
る土人ハ名なき

具理陰蘭土伊漢
蘭土乃本主
北極古に寒帯
此を多果之稱る
雪也みの百五煙

とて身の長五尺不足
らむ通用の文字も
あく人物甚ち愚
なり寒國のことか
まバ穴藏不佳居
て衣食共小きたか
一或ハ水を層立て
穴藏とあしたるも
り

吹雪り噴火山実小
極に系色なり
美吉利領に亞米利
加北極海の邊なる
南に鄰る合衆國



北亞米利加以南
 其一分の地
 水と北名不毛地
 荒野として人住僅十
 八家處を了る人住家

又いんぢやんとい
 人種り即ち亞
 米利加の土人種と
 ハこのことあり昔
 ころんぶが亞米
 利加を見出せし前
 此國に住へる
 者ふて開闢以來の
 亞米利加人おもど

多々無知又盲目の
 氏は南東は金田
 の地氣候次第小利
 民多く勢あり
 一みまら境水湖水

世界國畫卷目
 五

其性質殺伐小
て文字を知らざる
さだめ一家もあ
山阪を徘徊一弓矢
を以て獸を殺し肉
を喰ひ皮を著て生
涯を渡る者あり歐
羅巴人の亞米利加
へ移りし人此
種を追拂ひ都會の

るま流るる河は先龜
海河の畔の喜別久
ふ築建たむ礎是は
金城湯池乃く是く
し其の流るる亞米利加

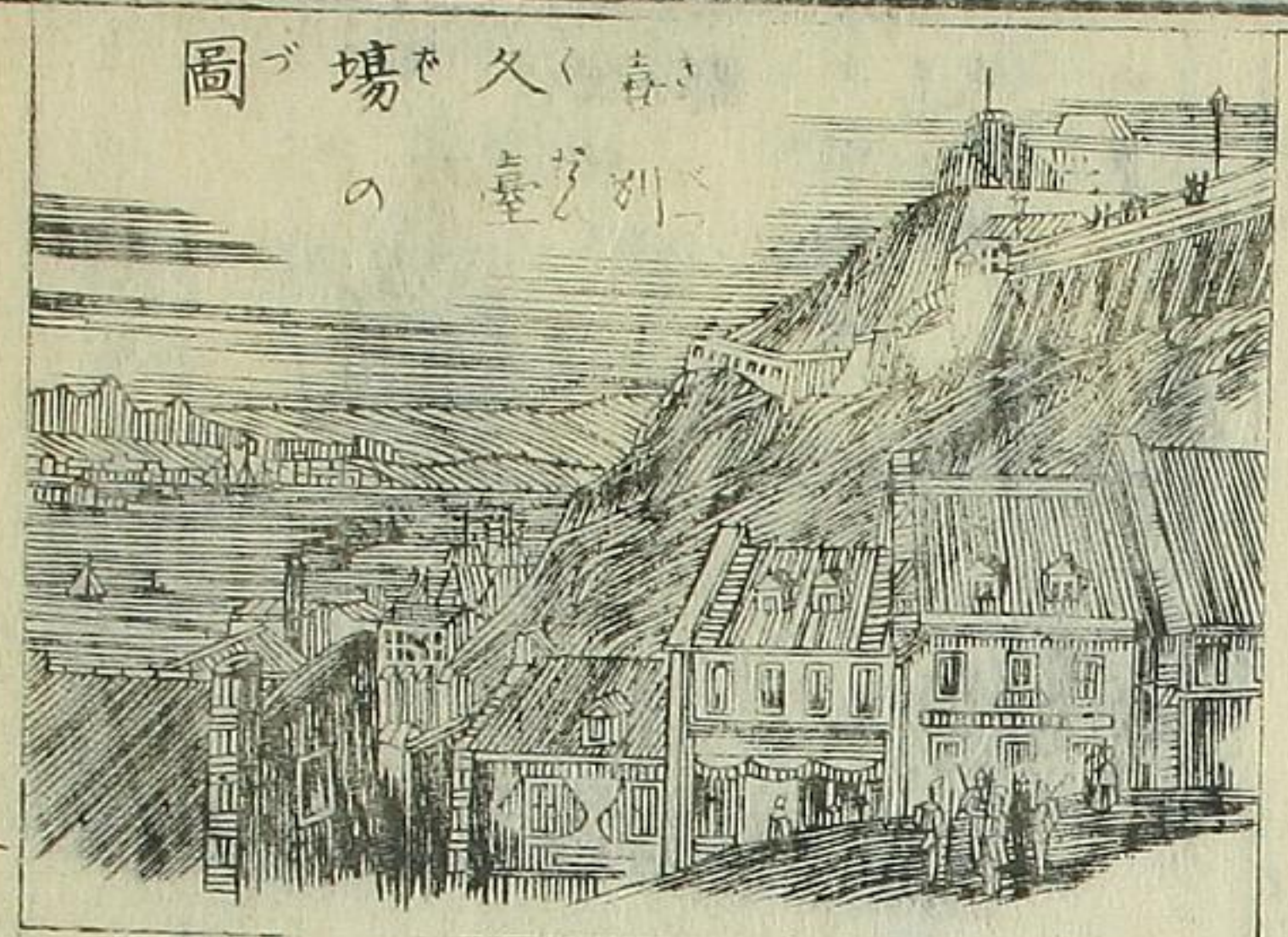


地へ出るを許さ
追々其人の數も減
少するあり

の治部良苗多苗
此多ふく孝河の流
瀬里門土里苗を河
中の流るる再
交易場西より

○金田の地ハ近來益々繁昌して諸鬼小學問所も多ク往來の便利ハ蒸氣車並ハ湖水ハ浮べる蒸氣船ハ高賣の道も甚と盛あり西洋人の説ハ此地も行くハ英吉利の手を離きて獨り

小田羽河の如きみまのこ
小田羽府を英吉利
國の代友所北の地
極西方ハ太平洋の小
濱も之を北の方ハ河

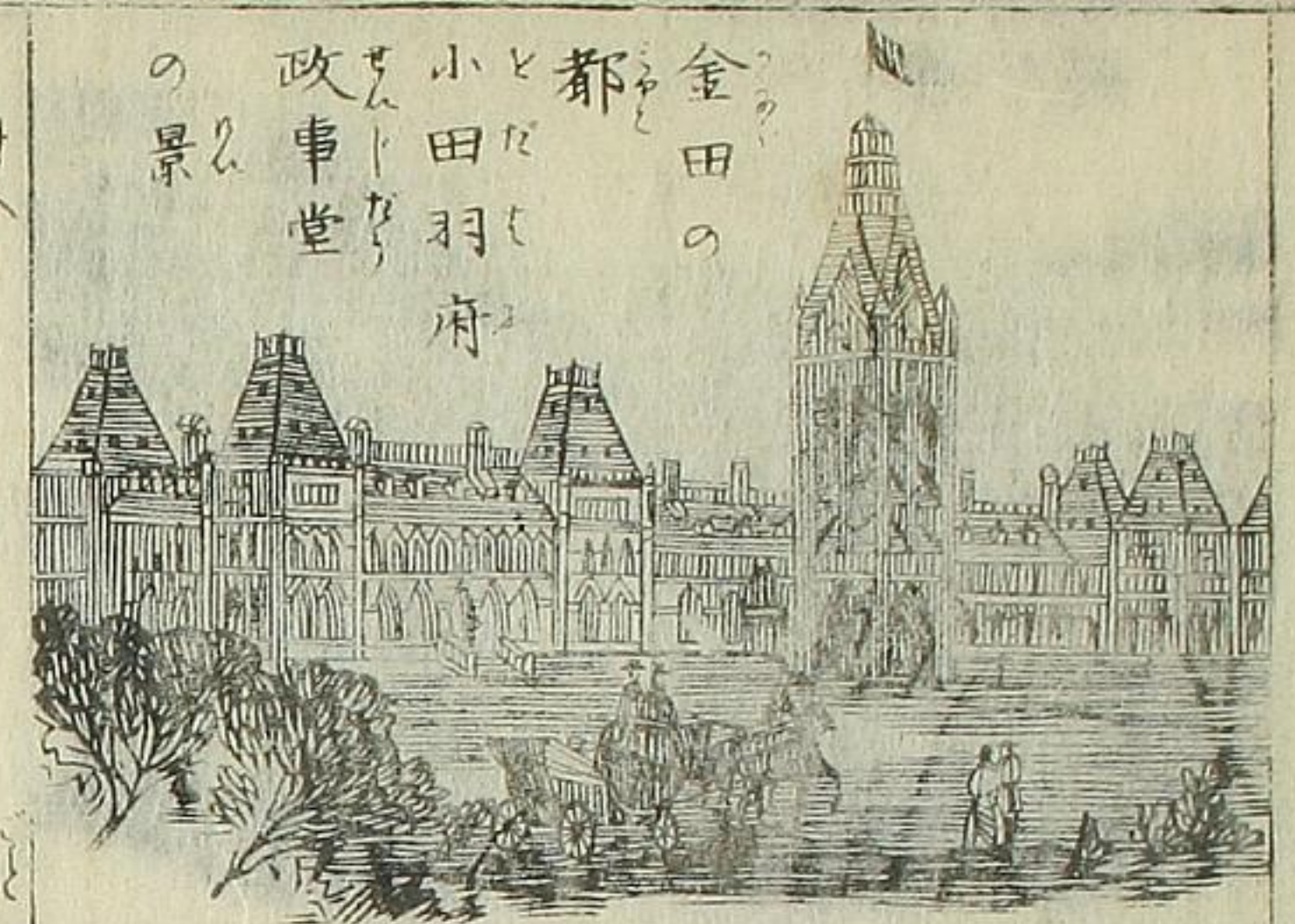


圖ガ場々久の臺

るう又ハ合衆國へ
歸してハ政府と
ふるべしとふ

多羅羅海新見の國
結果まゝ一十年
極。總奉行北粟米
利加。英吉利の
威勢以振ふ根本

世界國畫卷四



○前小の如
く亞米利加洲を見
出せ—後ハ歐羅巴

の諸國より家を移
—三百年をうり
問ハ人別も追々増
—今の合衆國の東
海岸の地ハ英吉利
の領分ハて人の産
業も繁昌する小付
本國の政府より運
上を取上げんとせ
—小領分の町人百

金田地方は所領

なり

昔夫のふと土地廣

く率土の濱に氏多

—位の如く奴生

悉くは貧富強弱

賢不肖と乃趣異

多は耳目鼻口

四肢は官是非曲直

を分別—善も淫

姓どもの言が億
兆の人民天地の間
小生も貧富強弱の
別こそやらん男ハ
男一人あり女ハ女
一人あり他人の妨
を為さずまハ亦他
人より妨げらるる
の理か今此地ハ
居て銘々の家業を

本心と學をすむむ
能く一種無類万物
の空より具る天の性
可古不易明一大義
之海は舟カ一舟カ

管と銘々共の申合
せおて國中の取締
り行届き本國の世
話を受けむとも自
りより一國を治るだ
けの覺悟はる鬼へ
政府より色々の命
を下し謂もかく運
上を取立んとハ以
らざる世話を為し

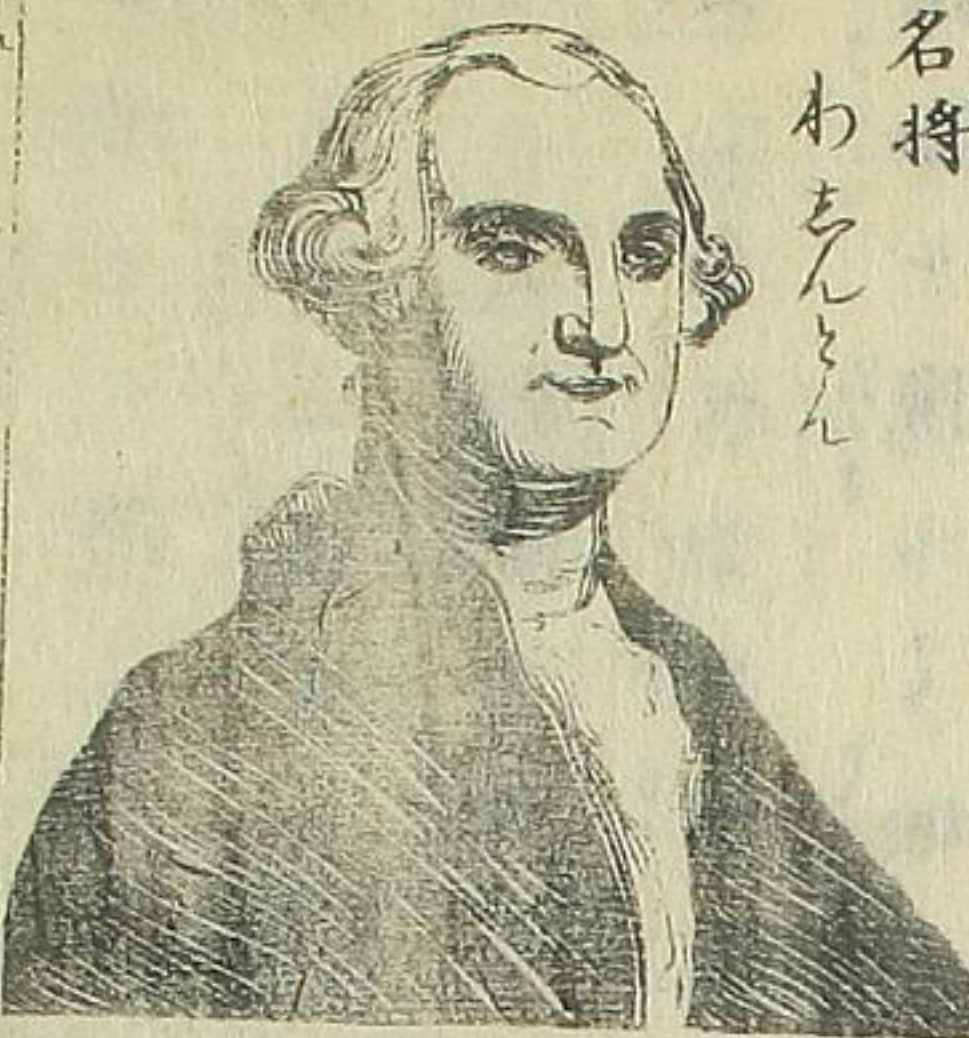
後一人の執我儀
我自由天の道理
其國報ゆ
丹心誠心

世界圖畫卷四

て下々の家業を妨
ぐかのそからぞ人
の物を奪取して
用を達せんとも
不時の舉動ありた
とひ國王政府の命
たしともこを柔
知し難しとて孫々
以て獨立の旗揚
変定せし頃、千七

如不羈獨立の勢を
留人として其を止
北亞米利加の十三州
は乃本國の政府より
威光を以て新し

百七十五年即ち我
安永四年あり



名將
あまん

英の本國より軍
勢を差向け威光を
以てこを鎮めん

言存るるに其税
は之を告げんと
便あり民を備
天然の自由は越え
しりし威光を以て

とまきども垂米利
加人ハ固より必死
小覺悟定り老若男
女獨立の師と聞
悦をさる者なく町
人ハ天秤棒を持て
市より起る百姓ハ
鉏鋤を携へて畑よ
駈歩も不どの勢
おもが中々穩便の

遺恨多し遺恨多し
恨より老を孝し頼む
所ハ天地の理に在
お、永々年の秋十
三海は石代人累に

扱山來む千七百七
十五年四月十八日
まきーんとんと
不夷の小戦おて始
て血を流し五月小
ハぶんける山小戦
争の事こそあり一
國の騒乱とありわ
ーんとんを推して
惣大将と為し翌年

此連判状世界一示
と檄文の英吉利王
の罪状責免自し
建し一合衆國武
器兵糧之し民

世界圖畫卷四

七月四日ハ四十
八士獨立の概文を
布告して人氣益振
ひ昼夜の戦争或ハ
克ち或ハ負け辛
万苦其有様ハ華小
盡難一人の誠心
天の恩恵遂ハ勝利
を得て英吉利と和
睦結び國政を定て

数多の敵を海を越
え新軍引替（せり）
有。操庫飛銃の
勢。松をを撓すぬ
鉄石の海を拓す



共和政府を建て
えんとんを大統領
の職お任せ一
國の基を開きたり

國の先づ生命
得自由西理屈
し生きたん小孝國を報
了死なれん一死決
七年の月の日

此慶亞米利加
帥の起王一誰一
人として頭取も
國中の人一般
獨立を望み婦人小
児も至るすも其
氣象を備へたるこ
とあれを英吉利よ
てさし向たる官軍
の勢もても克

以攻守知勇義の名
を子歳一涸く血
乃河骨の山七十七戰
の銀難え消く忘
と大勝利目如度

一こと方ち一既
小戦争の起る以前
のことあは不ふ
とんといふ更は
折しも冬の日町の
子供大勢おて雪を
集め家を作し達磨
をこしらへたど
て戦も居たを一
一官軍の歩兵来

一英吉利と和睦結
ひ新條約東國
き政と体ありし主君
あく天のは天下の
下たり四年交代

何心かくこをを妨
げ一こと度々あり
一ウバ子供等大小
憤ふして英吉利の
將軍「げい」の外や
その所を待受け將
軍へ訴ふことあり
と呼掛け一不將軍
はざ笑ひ汝等も親
小謀反を教へらむ

大統領工院の院の評
議役一國中の便不
便議り定先一法律
の威一行を水極一尺
以事之進む王の富石

て爰へ来り一や
いハ子供等ハを
くま氣色かく將
軍をふらつけ我
々共ハ人の指圖受
けて恭王一者小
らむ今日將軍へ訴
ふるも余の義から
ぞ我等嘗て官軍へ
對し失禮せ一覺も

工製器作商賣は英吉
利王と肩並了へ文教
校藝學校を佛蘭西
國以有一以去地
以る産物ハ穀獸類

つらざる小赤兵の
人々謂もかく我等
の自から作る雪
の達磨と踏崩し池
の氷を破て人の樂
を妨げし由を其
乱暴を止むきども
笑て答へを却て我
等を謀反人かど
唱へ更の取合を差

綿帳その葡萄菜菜
甘露金根銅鉛鉄石
炭ん世間のり用なる
物つるは是なり衣
食を逐ふ人其情亦

圖役の人へ告もど
も矢張同様の挨拶
のそ昨日も雪の家
を毀ちしこと既に
三度不及べ最
其終さし置き難く
思ふは付此上ハ唯
大將軍の裁判を仰
ぐのそと恐も憚る
所もかく辨説明ら

先得易き活計致
たつぬる人の思ふ事
日よ年集る月増し
人口云ふ有得る新
地并農おつる人

かお迷べけもバゲ
ハトもその氣象小
感心一流石亞米利
加の自由の風小浴
一たる小兒等勇ま
一き心ウか以後不
埒ある歩兵はらバ
必む仕置をなすと
てその舉動を譽て
返せしとの話り

漸く利く園塚東
西一五三千里北と南
一七百里十三海
の年飲ん今も乃教三
倍一三六州並

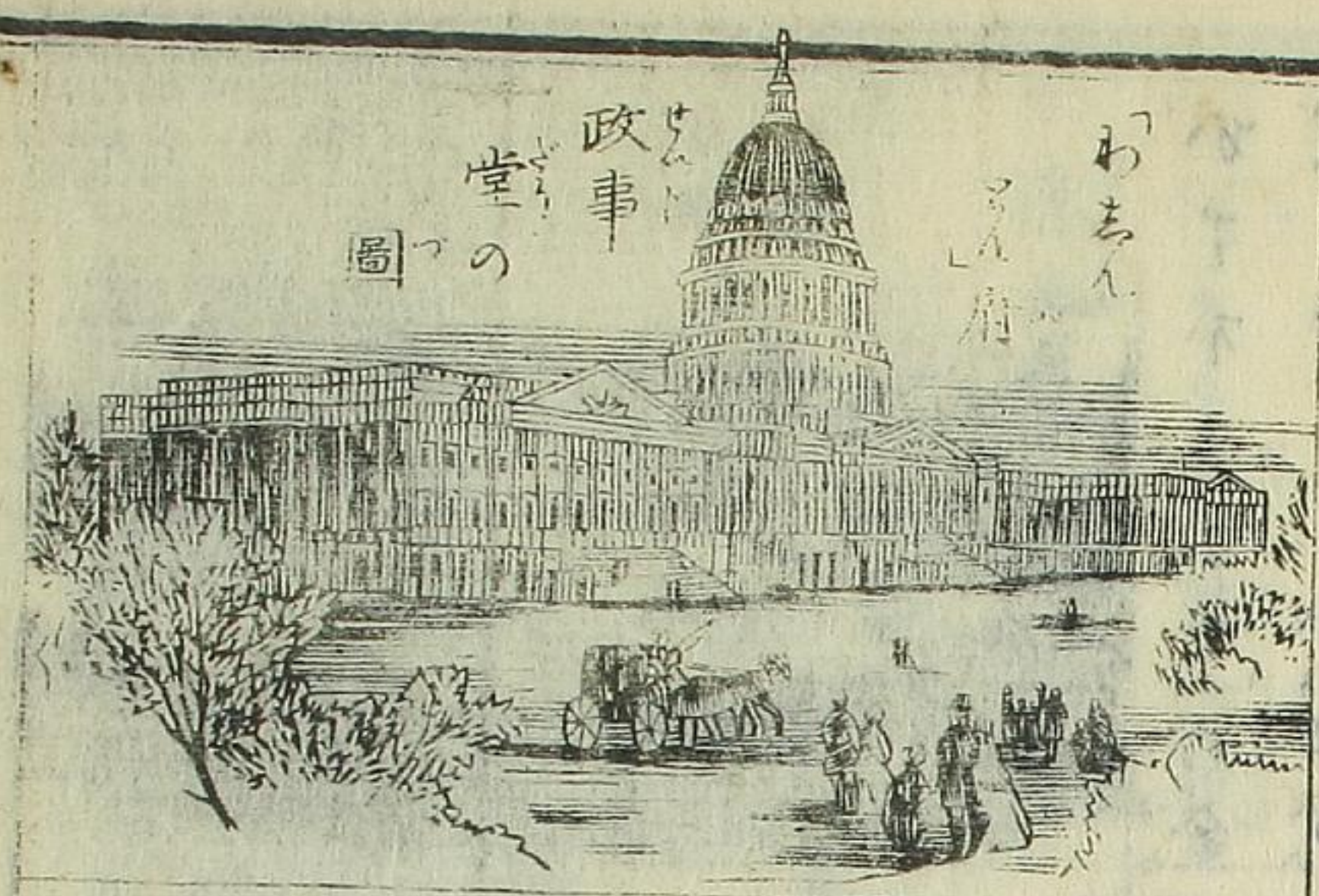


合衆國の東海岸小
ハ世留又り外ハ

去るも乃中心を和
新頓府内一併
政事堂高さ二百八
十尺御門橋閣山魏
こしと結構あり

不ふまといふひら
てりひやむちり
ふる等數多の都會
りて文學技藝盛不
して器物製造商賣
繁昌の模様ハ英吉
利佛蘭西ハ異ふら
む南の諸州ハ米
麥綿烟草等の産物
多し都て東北諸州

とて海を西の苗所
と獨立し威をふる
より大玉の議政為
政の源ありて人皆
大を道理より和

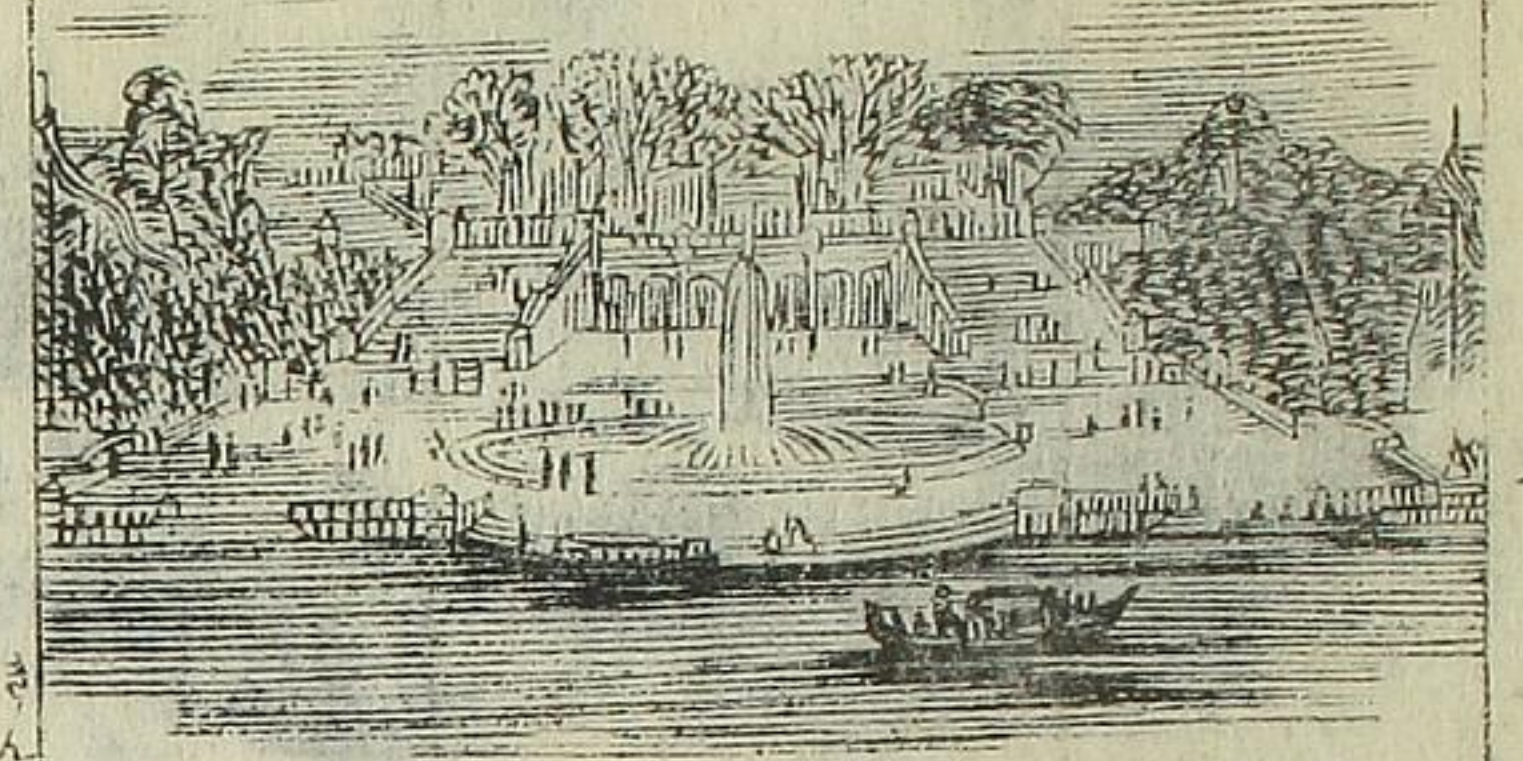


政事堂の圖
おまへ

ハ商賣を勉め南方
を農業成勵といふ

頼むるは坊の才百里
層々として人々皆
口んつ右の事少中一
乃て交易の場を設け
美吉利の論軟府

市遊園
中景



かまざるふの金
山ハ周リ世界第
一此合衆國

てん付御たり西
まらまら海岸の層
保留仁屋、金の甲斐
永三年事始より先
て海を建より

の領分ハ金銀銅
鉄のやる更甚と多
何れも蒸氣仕掛
の道具を用て巧を
盡し日本の金山と
ハ大ニ異あるより

人戸倍々増殖
たるる稼を金山の
業の者より牧田

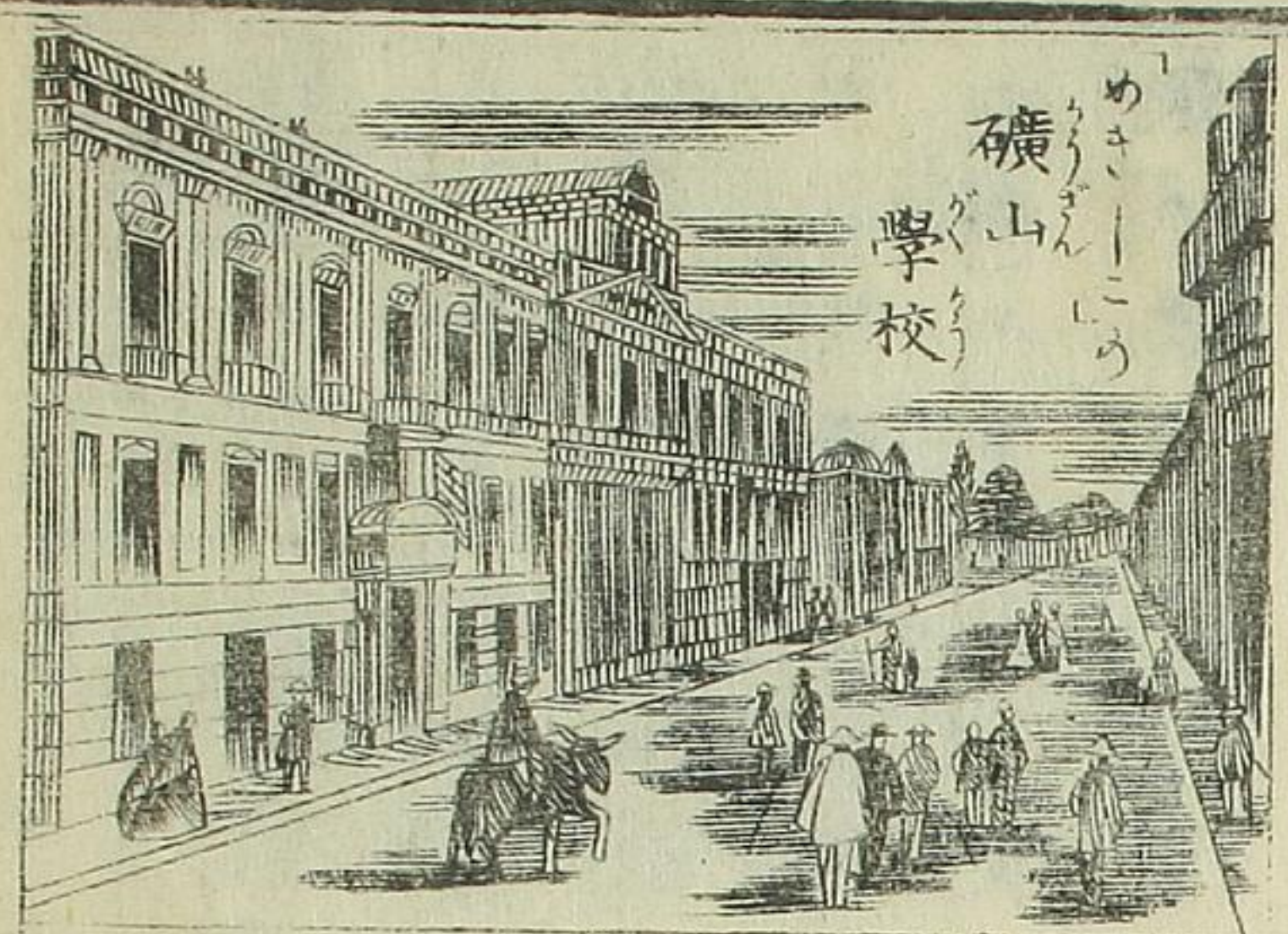


金山の穴の模様

畑百の職業
水く火平

○女喜志古ハもと
 西班牙の領分あり
 一七八百二十一
 年獨立して合衆政
 府を建てて一千八
 百六十四年佛蘭西
 攻滅さる佛の差國
 不て「まき」を立
 んといふ人を立て
 國帝とふせしう僅

海ノ海岸ノ一列
 おも森を誇るを
 女喜志古の北の界
 合衆國南東一橋
 女喜志古の南



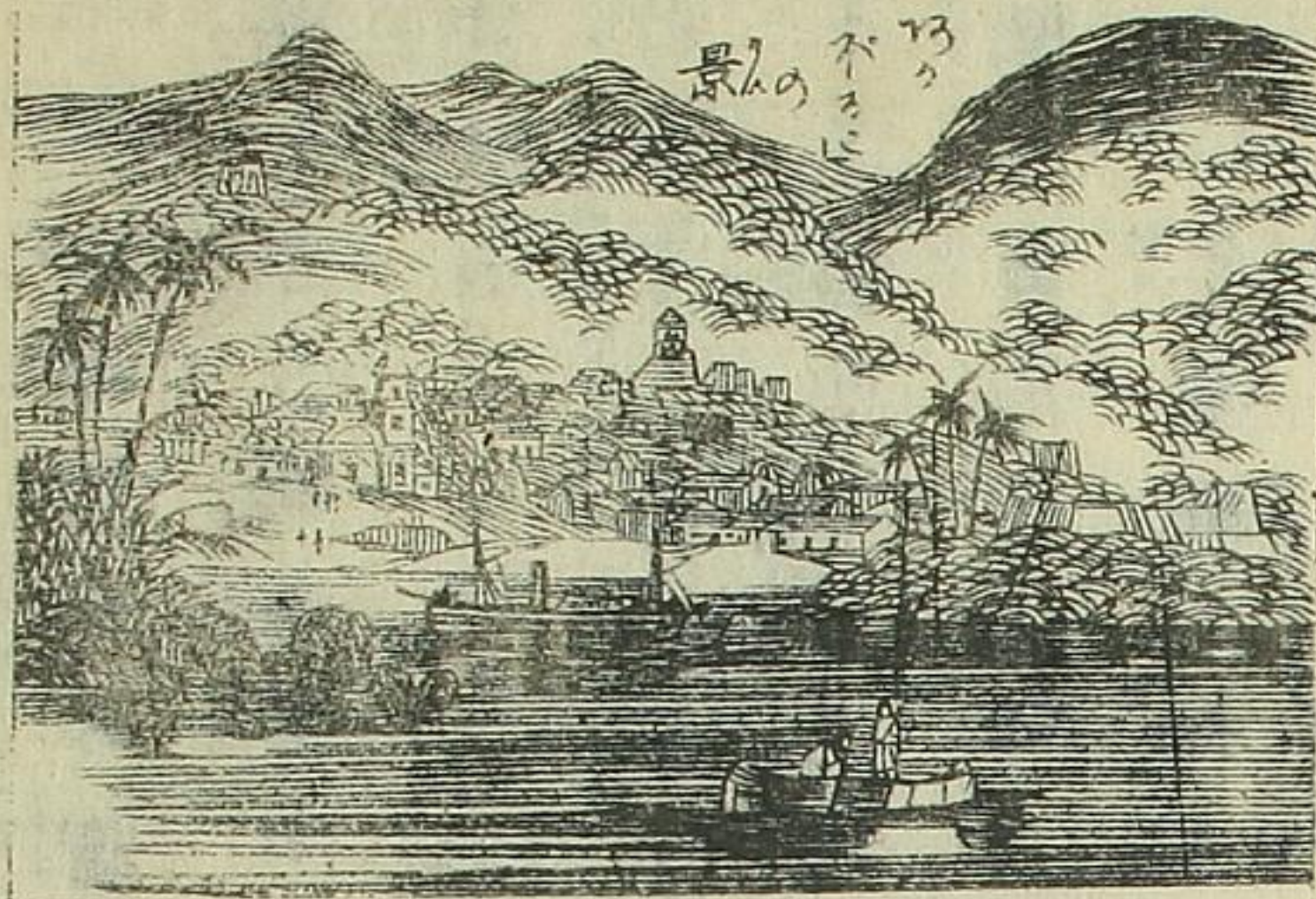
二年ハ一七慶應三
 卯年國中又乱して
 新帝を殺したる

一七八百二十一
 年獨立して合衆政
 府を建てて一千八
 百六十四年佛蘭西
 攻滅さる佛の差國
 不て「まき」を立
 んといふ人を立て
 國帝とふせしう僅
 海ノ海岸ノ一列
 おも森を誇るを
 女喜志古の北の界
 合衆國南東一橋
 女喜志古の南
 加ノ界ノ南北
 九八百里東西三百
 三十里ノ只八百二十万
 土地ノ生きたる産

世界國盡卷四

欠きし二より出る
 金類の中は最も多
 きハ銀あり東洋諸
 國へ其通用銀を積
 む日本は洋銀
 と唱ふるものも矢
 張のきしこのど
 ろらるなり
 女喜志古の西海岸
 赤保留古とてよ

物を衣食に用
 不足なり用はあ
 まる金と銀世界中
 之積を以て富を利
 用の源に汲とん福



寄る
 き港あり飛脚船か
 とハ必むある一
 寄る

如淵を北と政府の
 基因に民の修
 仰淺くし志を
 政治を以て決
 國に乱民乃并化

○中亞米利かの諸國も元ハ西班牙の領分ありて千八百二十一年本國の手を離して暫くの間女喜志古ハ與て二年を経て獨立の政府とあり其後又各國相分けて各合衆政府を建て

了 皇たり
 女喜志古のみありて
 つく教箇國ハ中亞
 米利かの地以て割
 授自立の体あり

産物 金銀銅鉄材
 木藥種多し
 ○古論成子ウ亞米利加を發明せし以前歐羅巴人の往來し地理風俗を知らざる處ハ唯其本國の近傍のみならず伊須蘭土阿非利加洲の北岸小亞細亞荒火

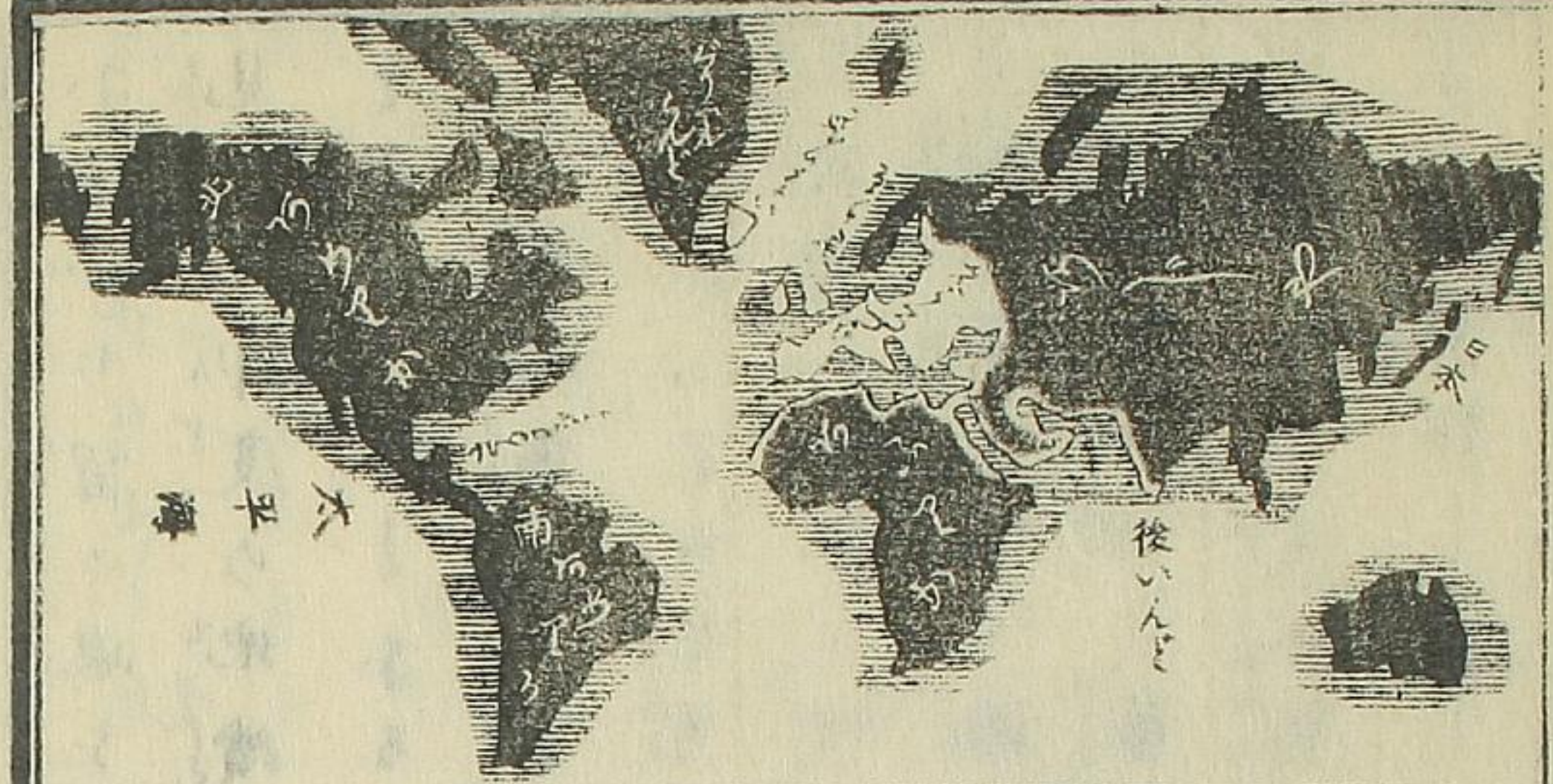
割と多なるは
 各守り力なく彼我
 固力故約束し合へ
 は力なく一統せ
 以唯時より勢を流

屋の海岸より遠方
ハ後印度の即ち
左の圖中お白き
あり其外ハ更ハ知
らざ唯此世界ハ圓
きものなりとの理
を信して西の方ハ
も陸のらんと思ひ
案ハ違ふことを
見出したるあり故

北は以て行末の治乱
の極と國とを中
亞米利加の東方ハ
群島鳴ハ西印度印
度之所縁なり場を

小猿和七留の嶋を
見ても印度の地續
と思ひしことある
べし其時島人の驚
一方から老若男
女濱邊ハ集て三艘
の船ハ航る事様
を見てもハ白き翼
を廣げたる大化物
ありと思ひし

西の印度と名けし
昔明應初年の迄
世よ存ん高麗古論
武子西の世界ハ其様
に記始し是なり



猿和土留無米利加
 たり先心まじ見以
 去平海の何んとは
 夢をえ知れあの端
 を印度の端と認め

西印度の島の数九
 を一十の氣候冬
 は多し熱地味肥
 も甚多一人口合
 て産物多し人口合
 せて四百萬人此内
 六分の一は歐羅巴
 の人種はて其餘ハ
 黒人なり又黒白相
 混したるもの様

人告げし由來
 西は印度の名
 月免古今未嘗
 有の天叢明人れ
 と島の名と昔傳

世界圖畫卷四
 二二三

地ハもと西班牙の領分あり今ハ獨立國として皇帝ハ黑人ヤリ邪麻伊嘉ハ英吉利領あり又場ハ西印度諸島の中小て最も大いふてその都を葉打奈といふ西班牙を領し馬演ハ小

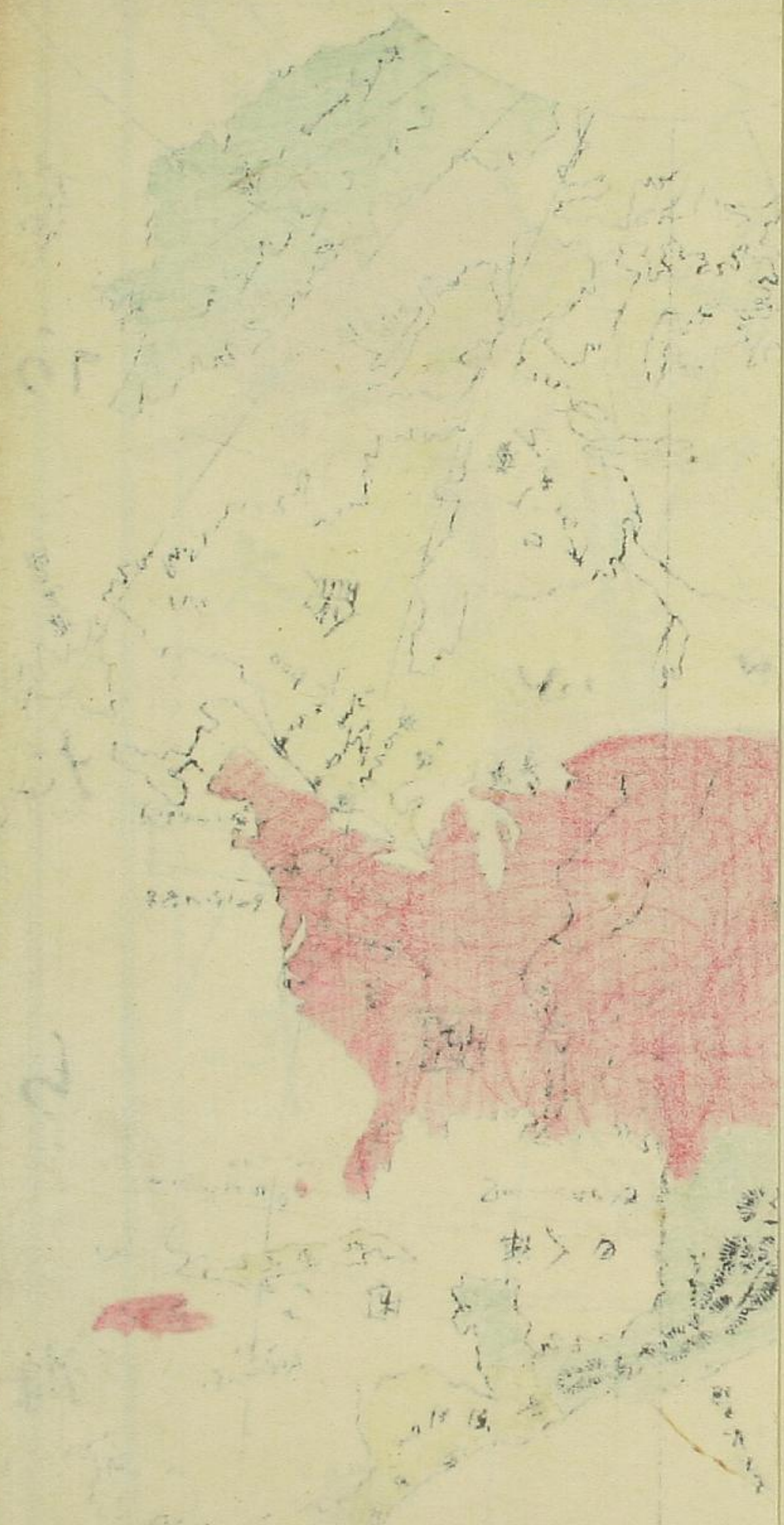
了千萬歳と嶋の數の多し中一昔百ハ身之慣水一石名棒地邪麻伊嘉久場馬演時候熱

き鳴の一群おて其數五百り、棟和土留も其一島あり



此邊の芭蕉ハ實を結び又じんあつ

冬初より土地の産物豊し衣食足るものあり砂糖骨冰綿畑多棒地多此邊芭蕉の實久場



松子のかい
かきん
ぶる



芭蕉

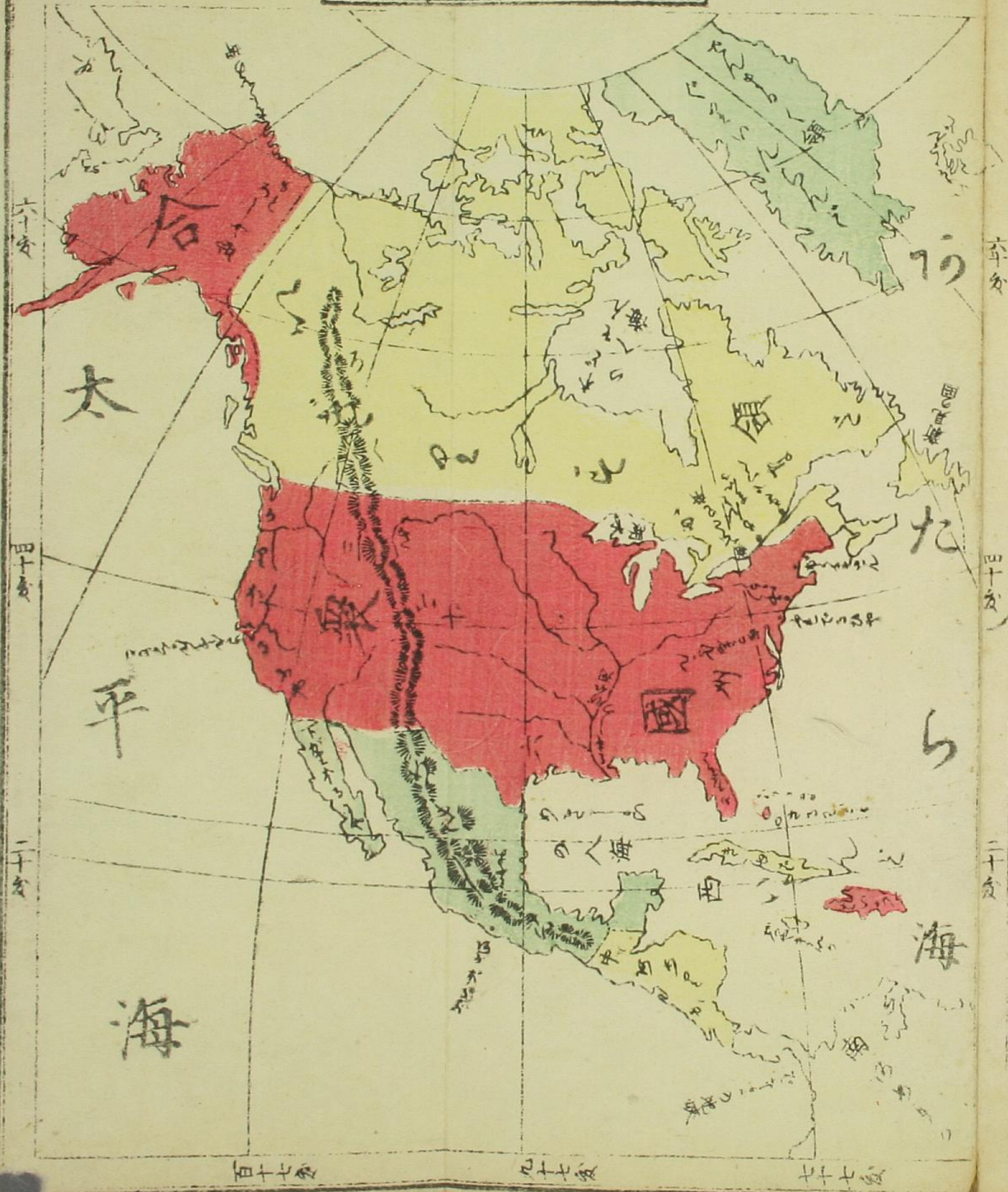
ぶるといふものの
を何かも其味より

世界圖説巻四

智教もも春烟を業
相奈の必の相入を
世界各類の石水子
子

たなはたの石水子

洲加利米亞北



岡田氏

010190533986

